

轍 2023 目次 (敬称略)

第二部

2023 年 10 月 28 日~11 月 4 日

OB1 年 小野

3

今回の轍は 3 部構成です。第一部、第三部は別ファイルで収録しております。

第一部へのリンクは以下のとおりです。

http://www.teamnc.net/online-magazines/pdf/wadachi2023_1.pdf



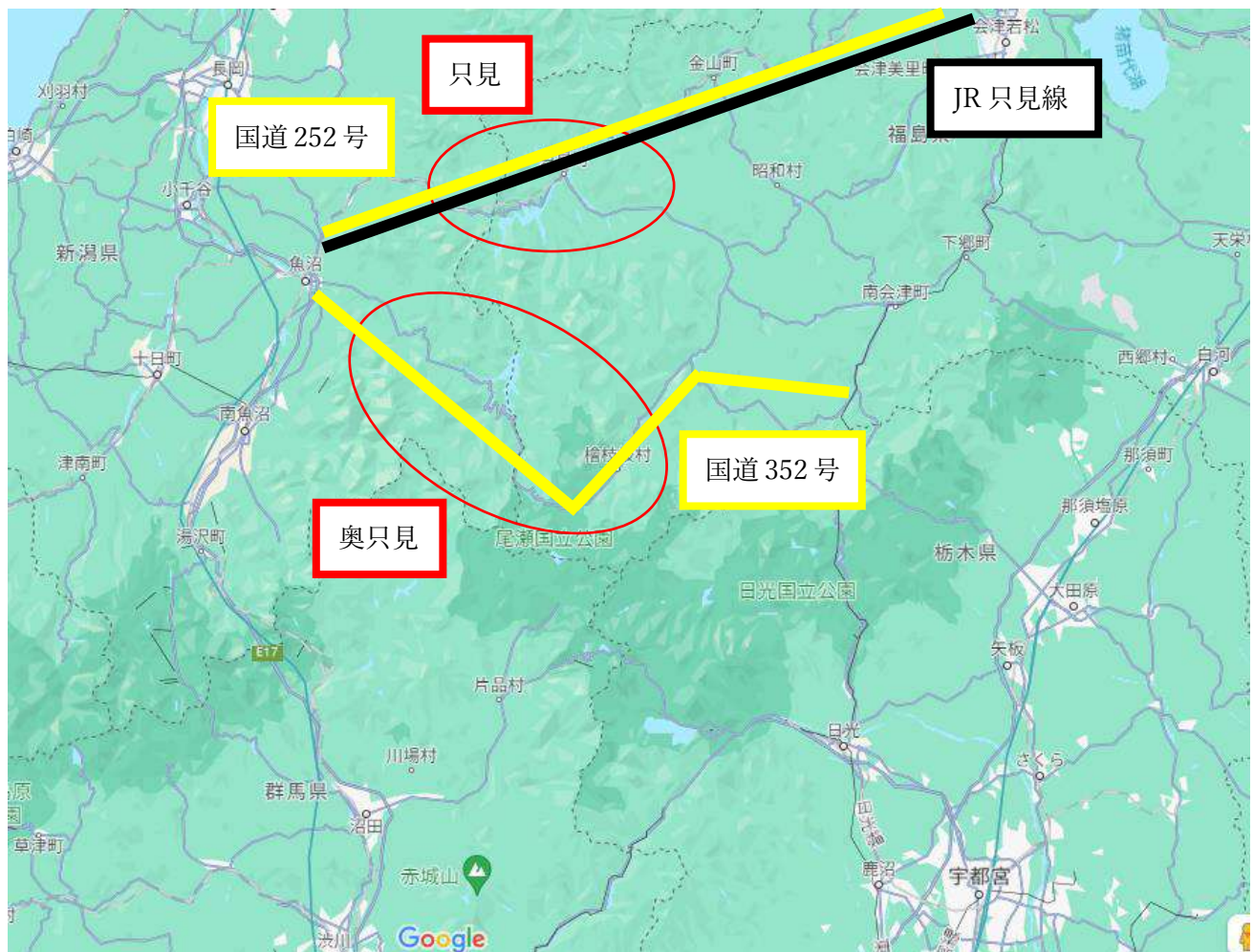
11/2, 11/3, 11/4: 奥只見 (自転車 300km 4,800mUP, 鉄道 720km)

初めに言っておくと、奥只見をおすすめしたい。そして奥只見にはぜひ自転車で行って欲しいです。ただ、碌に準備せずに行くと山に飲まれるし、楽しむことはできないかもしれません(走力のある人はその限りではありません)。

以降で詳しく書いていきます。

最初に行程や発券した切符、コースの特徴や制約について書きます。

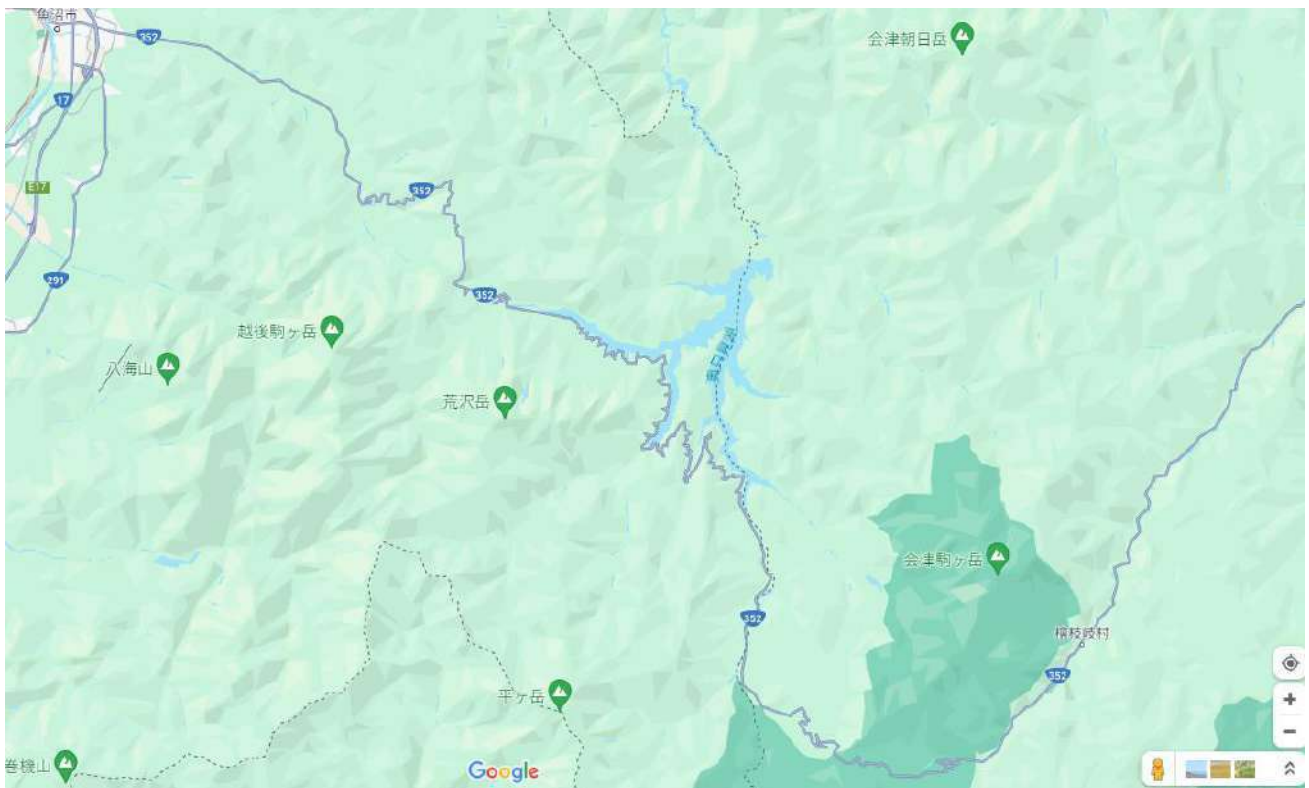
ざっくり只見・奥只見ってどの辺?



福島県の西の端で個人的には新潟の端っこも只見・奥只見エリアと呼びたいです。只見と奥只見は山で南北が完全に分断されており車での行き来が容易ではありません。只見エリアには国道 252 号と並行して新潟県の魚沼市から福島県の会津若松市へ至る JR 只見線が通っています。只見線は 2011 年の豪雨から一部区間がバス代行輸送となっており、全線運転再開はなんと 11 年後の 2022 年 10 月 1 日でした。只見線は立派な橋梁が有名で写真を撮る人たちには人気みたいですね。只見も険しい場所だけど奥只見に比べればまだ良いのです。問題なのは奥只見を通る「**国道 352 号**」、今回の旅の主目的の 1 つです。

国道 352 号(酷道 352 号)

国道 352 号は日本海(新潟県柏崎市)から長岡、魚沼を通過して南会津、日光の方面へ行く道路であり、魚沼～南会津の区間が険しい道(酷道)として知られています。しかしこの区間は四輪とそれ以外で通れる道の選択肢が異なります。四輪は奥只見シルバーライン(県道 50 号)という 20km ほどトンネルが続く道路を通れますが、二輪は通行禁止なのです。国道 352 号は魚沼から標高を上げて 1,065m の枝折峠(しおりとうげ)を通過して奥只見湖南湖畔へ降りますが、車だと枝折峠を避けることができます。奥只見湖南湖畔は地図の通りグネグネした道が 30km ほど続き、最後には標高 1,520m の御池ロッジまで上り、あとは下り基調が続きます。一部区間では電波もないエリアが続きますが、自転車で行くとしたら一番の難点は 100km 以上補給が期待できないことでしょう。檜枝岐村中心部にはコンビニがありませんから、魚沼のラストコンビニからは 120km でローカルコンビニ、セブンイレブンに至っては 145km 山を走る必要があります。そのため私のような一般チャリダーは準備が必要なのです。



国道 352 号に関して旅の制約としてのしかかるのが、「冬季閉鎖」です。下にこれまでの国道 352 号枝折峠(駒の湯—銀山平)と銀山平船着場—県境の冬季閉鎖について纏めます。これほど長期間閉鎖される国道を他に知らないのですが(工事をしている国道 458 号は除く)。ソースは Twitter など。

| 年 | 冬季閉鎖解除 | 冬季閉鎖開始 |
|------|--------|-------------|
| 2019 | 6/21 | 11/11 |
| 2020 | 6/12 | 11/9 |
| 2021 | 6/30 | 11/9 |
| 2022 | 9/16 | 11/9 |
| 2023 | 6/23 | 11/6 午前 9 時 |

今回奥只見に行こうと思ったきっかけは紅葉であり、それも終わり間際の朽ちかけの紅葉を狙っていました。Twitterで奥只見の様子をチェックして良い時期を狙っていたのですが、結局11/4と11/5に雨が降るとの予報で11/6には冬季閉鎖ですから奥只見の核心部を11/3にぶつける以外の選択肢はありませんでした。11/3に奥只見を走るには11/2の前泊が必要であり11/1は長野で用事がありましたから、長野から帰ってすぐに福島方面へ行くという無茶をする以外にありませんでした。奥只見へ東の会津若松から入る、西の魚沼から入る、という選択肢がありましたが、色々検討した結果西の魚沼から入ることになりました。前泊をしたとしても奥只見を1日で通り抜けて都合の良い駅に行くには200km以上走る必要があったので1泊入れることに決めて宿を探します。

滝雲問題

調べていると枝折峠に早朝に行けば「滝雲」という現象を運が良ければ見られるということを知り、せっかく行くのだから是非見たいと行程に組み込むことにします。そのためには真っ暗な中峠を上るというのを加味して、日の出が午前6時だから余裕を持って朝3時に上り始めたい、それを実現するような宿を探します。

前泊の宿をどこにするか

国道352号の上り口に近いほど当日の負担が減ります。そして午前1時など非常識な時間にチェックアウトできる宿を只見線の端っこである「小出駅」近辺から探していきます。主にネットカフェを探しますが、本当に見つからず困りました。魚沼、南魚沼、十日町、小千谷と見ていくも数年前に潰れた店舗ばかり引っ掛かります。結局、気は進まないものの小出から約40km離れた長岡の快活 CLUBへ泊まることにしました。始発の列車でも小出の出走が6時頃になって滝雲に間に合わないので暗い中40km走る、つまり2時間かかるのが少ししんどいです。でもこれより良い選択肢が見つからなかった。

2日目の宿をどこにするか

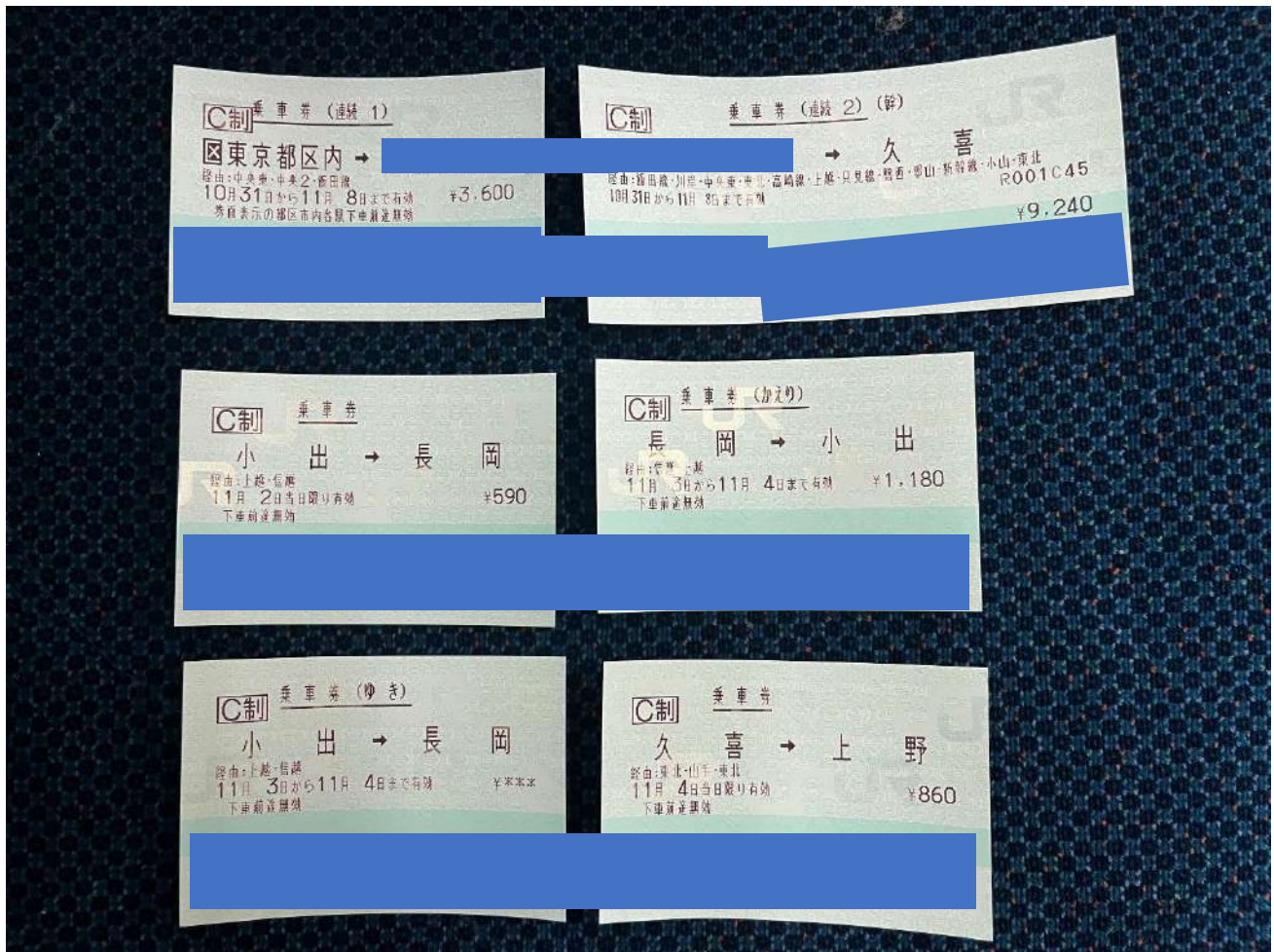
11/3に枝折峠などを通して檜枝岐へ抜けたとして、泊まるなら檜枝岐かひと山越えた木賊(とくさ)もしくはふた山越えた湯の花エリアかと考えました。とりあえずじゃらんで11/3の宿泊を調べるのですが、やはりコロナ明け+祝日+3連休1日目+道路閉鎖3日前ということなので空きはありません。じゃらんに乗っていないような所も調べますがやはり空いていないようです。1か所だけ2人なら泊まれるという宿はありましたが、立地と金額で却下。範囲を広げて只見まで見ても同様でした。結局また長岡しかないと判断して、檜枝岐から更に60km只見駅まで走って輪行で長岡まで抜けるという計画にしました。長岡のビジネスホテルを予約〜。(ここは最終的に泊まっていますが後ほど。)

2日目の行程

先ほど書いた通り11/4は雨予報なので、雨が降ってきて嫌になったら撤退できるように只見線沿線の散策を行うことにしました。長岡で朝まで寝て只見駅に午前10時の列車で戻ってきて、只見駅から線路沿いに東へ、温泉を楽しみながら可能であれば会津若松まで抜けるという計画を立てました。作成する切符の関係もあって只見線沿いに行くのが好都合なのです。帰りですが、只見線で輪行する場合郡山から新幹線に乗らねばその日中に東京まで帰れません。

作成した切符

長野での用事分と一緒に東京駅で作って貰った切符がこれです。



- ・ 1枚目と2枚目は連続乗車券で作っているけれど、別にその必要はなく気分でやった
- ・ 2枚目の経由は以下
「飯田線・川岸・中央東・東北・高崎線・上越・只見線・磐西・郡山・新幹線・小山・東北」
- ・ 2枚目を久喜(大宮のちょっと北)で止めているのは大宮でループを形成するのを防ぐため。本当は大宮の1駅隣である土呂駅までにすれば良かったけれどミスした(追記: 規則上大宮まで買ってOKだということに後で気付きました)
- ・ 東北新幹線はまだ乗るか分からなかった所以直前に予約することになっていた
- ・ 有効期間が10/31~11/8と過剰(900km以上あったはずだから仕方ない)
- ・ 小出と長岡の行き来については3枚目が前泊分、4枚目と5枚目は往復で買っており5枚目が只見から輪行して長岡へ行くための分、4枚目が11/4に長岡から只見へ行くための分
- ・ 駅員さん「これ小出一長岡(3枚目)の帰りはどうするの?」私「自転車です。」
- ・ 11/3分「只見一小出」は六十里越峠を自転車で走る可能性があったためまだ購入しなかった
- ・ 6枚目の切符を発券する際に駅員さんが裏に確認に行ったのは「東北・山手・東北」でなぜ山手が入るのか確認したから

説明はこれぐらいにして時間を11/2午前1時から進めましょう。

旅行の計画を作ったのは良いとして荷物の準備や自転車のメンテナンスは一切行っていないのでダラダラその辺をやりまます。前に長距離に乗ったのが6月の上日川祭であり、以来自転車は輪行状態だったので組み立ててチューブ交換と油差しを行いました。何回やってもタイヤを外すのに時間がかかる上たまに手を怪我してしまうし、タイヤをはめるのも下手くそです。そんなこんなで寝ずに夜が明けて出発の時刻になりました。もう生活リズムがめちゃくちゃです。

9:50 輪行するの久々



午前0時に起床する生活リズムのために長岡 15 時到着を狙って普通列車に乗り込みます。

落ち着いたから眠気が……！

起きたら小山でした。



目を開いたら妙に乗客が少なくて違和感があったんですよ、それでアナウンスを聞いたら「まもなく小山です」なんて言いやる。やらかしたやらかした。最初は大宮で電車が分離して前は東北本線へ、後ろは高崎線へ行ったのかと思いましたが、写真から推測するに乘る列車を間違えたようです。ホームは合っていたのですが乗った列車は大宮から東北本線へ、正解の列車はその4分後の大宮から高崎線へ行く列車でした。睡眠不足だと注意力が鈍りますね。

東北本線をそのまま行くのは乗車券もあるし論外であり、とりあえず小山で下車します。

Welcome to OYAMA (虚無の心)



故意ではないので取り敢えず大宮まで戻るしかなく、逆向きの電車に乗ります。予定していたダイヤに追いつくためには新幹線を使うしかないようです(上越線の水上当りが1日5本しかないため)。新幹線輪行は確定として極力お金を払いたくないので調べた結果大宮ー越後湯沢のみ新幹線輪行をすることで予定の普通列車を追い越せることが分かりました。でも上越新幹線は特大荷物専用スペースがないので気が乗らないんですよ。



12:37 大宮駅ホームの駅そばにて「佐野ラーメン」

新幹線の切符(自由席)を買ったり、作った連続乗車券の2枚目が自動改札機を通せないことが判明したり、色々ありました。昼飯は駅そばを調べて有名な佐野ラーメンというのを食べました。普通の味、リピートはなし。

13:05 大宮ー13:56 越後湯沢 新幹線乗車



とき 321 号での輸行でしたが、自由席が混雑していたのでドアの所に立って1時間を過ごすことにしました。基本的に進行方向左のドアが開くはずですから邪魔にならないように進行方向右のドア前に陣取りました。

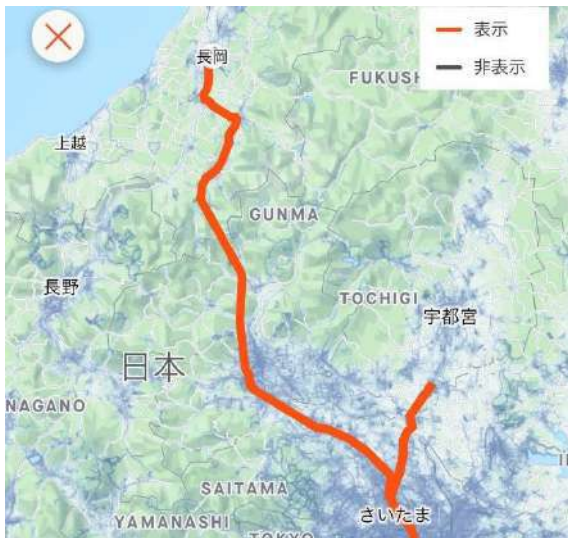
立ちっぱなしだったので越後湯沢から行き過ぎることもなく、無事乗る予定だった普通列車に合流して長岡駅に到着しました。

15:58 長岡駅にて→



郵便局でお金をおろしてから快活 CLUB 長岡川崎店へ。

11/2 の移動 長野行ったり新潟行ったり



長岡に快活は 2 店舗ありますが、長岡川崎店は結構良かったです。自転車で行くならさほど遠くないし、何より嬉しいのは目の前に 24 時間の巨大スーパーがあること。他にも飲食店が近くに充実している好立地です。スーパーでは補給をしますが、100km の山岳区間を無補給で走れるぐらいが必要です。でもそれってどれぐらいかよく分からない。晩飯も含めて弁当、おにぎり 3、パン 2、麦チョコ、ピーナッツ 3 と買ったけれど、食べ物より飲み物の方が枯渇しそう。0 時出走なのですぐに寝るべきなのにダラダラしていて寝たのは 19 時過ぎでした。目覚ましを 23 時にセット。

0:44



またやらかした。起きたら 0 時回ってる。もう雲海見れないんじゃないか？と思ったけれど元の予定は余裕を持ったものだから 1 時間ならギリギリ大丈夫。これがもう 1 時間遅かったら終わってしまいました。10 分で支度をして退店、ナイトパック適用外なので料金がちょっと高かったです。(写真を見返すと 23 時丁度に撮ってるんだけど起きた覚えがない……。)

1:05 出走

最初に目指すは枝折峠で長岡からは 61km、チェックポイントとして小出までは 38km なので小出 3 時と枝折峠 5 時目標で行くことにしました。そして日の出は 6:09！

1:11 国道 17 号長岡東バイパス



小出に着いてからの話ですが、枝折峠までは街灯が 1 本もない 1~1.5 車線の道路を真夜中にヒルクライムするという結構ヤバいことをするので不安でした。

さて、快活を出て真夜中の国道 17 号長岡東バイパスを快走します。そんなに車がないですが VOLT200 の省エネモードで路面が見えにくいので集中して走行します。ちなみにこのまま真っすぐ 200~300km ぐらい走れば本郷キャンパスまで行けます。

最初は快調に飛ばしていた所、18km 地点小千谷を過ぎた辺りで状況が変わります。

濃霧 前後 30m ぐらいしか見えない



2:18 乱反射して光線がよく見える
眼鏡をかけている人に濃霧は厄介ですすぐに視界が曇ってしまいます。2022 年 9 月、北海道の落石と同じく 9 月渋峠ダウンヒル以来の濃霧です。後ろから轢かれないように注意すること。いくら走れど霧は晴れず、ついには 3:00 小出駅到着！（グロス 20）



只見線の末端駅である小出駅に到着しました。こんな時間でも駅の自動ドアが開いてホームに入ることができました(伏線)。余裕のない身ですから山岳区間がスタートする前の最後の補給地点、セブンイレブン魚沼湯之谷店へさっさと向かいます。



3:13 ラスト補給地点到着

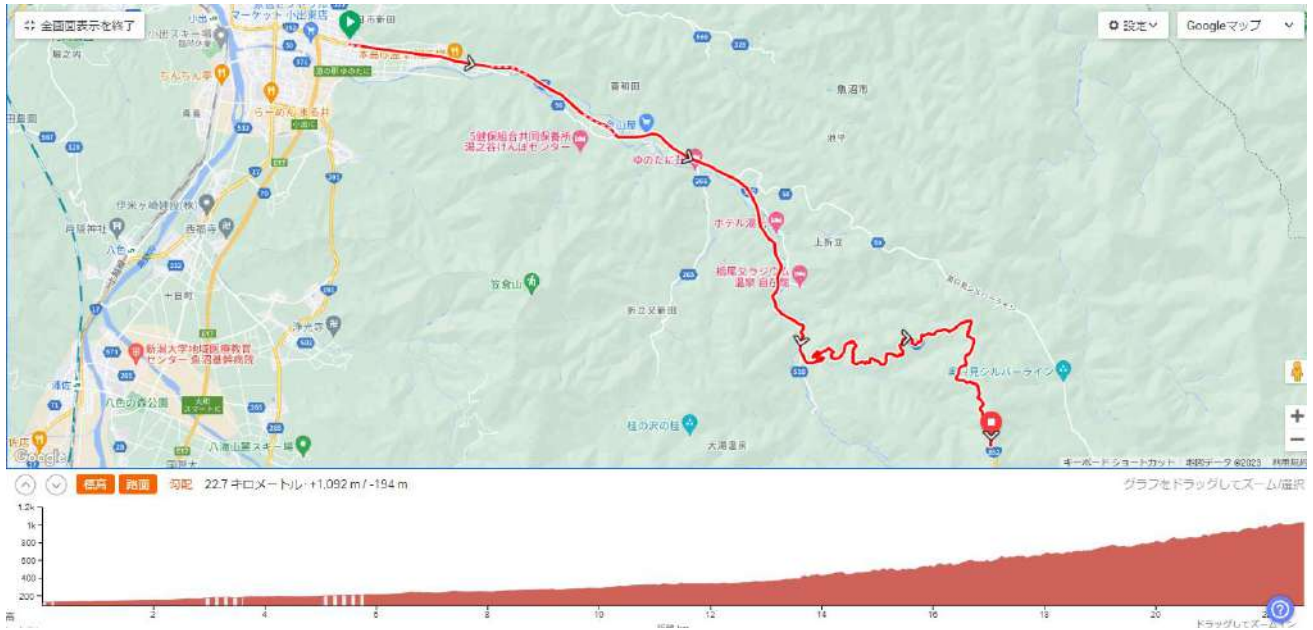
長岡では寝坊してもう一度スーパーに行くことができなかったため、ここでようやく飲料を買います。ポカリ 1L とお茶 600mL、あとメロンパン(今考えると飲料足りないでしょ)。

100km ウォークの膝の痛みは今の所治まっておりこの先上る峠でどうなることか。

3:26 コンビニ出発 枝折峠まで 23km

自転車で行く枝折峠

走っていた時は気にしていなかった坂スペック。コンビニからシルバーライン分岐の 8km はほぼ平坦で、温泉街を抜けた 12.5km 地点からが本番。後半は 10km で約 700mUP とそこそこな峠に見えますが、緩い区間と急な区間に分かれており最後には「魔女の三段腹」と呼ばれる 15%が連発する区間が襲い掛かります。この枝折峠では毎年ヒルクライム大会が行われているそうです(コロナ期間は中止?)。



4:09 距離を半分削って温泉街へ

4:24 一車線に そして真っ暗 (ここ分岐です)



コンビニを出て走る中で後ろから追い越してくる車が結構いましたが、彼らはやはり雲海を狙っていたのでしょうか？でも同じぐらいの数来る対向車はこんな時間に何をしているのか全くもって理解できませんでした。温泉街までは少ないながら街灯があるのですが、温泉街を抜けるとすぐに国道のくせして1車線になり鬱蒼とした森の中に入っていきます。左上の画像ではiPhoneが補正するせいで空が青みがかっていますが実際は漆黒ですし、右の画像は対向車+後続車が来ている所を撮ったから明るいだけ

であって実際は本当に暗かったです。この狭い道から外れると崖下に転落して多分助からないので夜ヒルクラでは落ちないように注意せねばなりません (そもそも夜ヒルクラって誰がするのか)。

4:48 シェッド

最初は森の中ですがしばらく行くと視界が開けて満月が照らすので案外ライトなしでも上れました。VOLT200が切れたので400にチェンジ！



4:55 枝折峠 6km



枝折峠で雲海を見るのを目的にしているのであろう車やバイクが後ろから断続的に現れます。うねる峠道であることを加味しても彼らのスピードは自転車で上る私と比べれば速く、これから行く道を照らし遂には谷を挟んだ反対側、はるか上空へ。これはこれで面白いし、明るい時間帯なら一面の紅葉の中に山肌を削るこれから先の道が見えたのでしょう。1車線の狭い道でバスにも抜かされますが、雲海ツアーとして「うおぬま滝雲シャトルバス」が先ほど通りすぎたシルバーライン分岐の辺りから出ており、車が無くとも雲海

を見に行くことができます。始発便は午前3時40分発車なので早起きは必須です。

予定では枝折峠頂上へ暗い時間帯に到着して星空を見上げたいなと思っていたのですが、寝坊したことによる1時間ロスが響いており日の出までに到着するのが精一杯という所まで追い込まれています。暗くて斜度が目で見て感じられないのですが思ったよりスピードが出ず足つきもたまにしまいます。疲労を加味しても5%のような標準的な上り坂でなかったのは確かでしょう。

5:13 目標にしていたシェッド



対岸へ渡る道が折り返して進行方向が変わる所にシェッドがあります(頂上まで約4km)。ここを小目標にしていたので足をつくと後ろからライトが2つ迫ってきます。最初はバイク2台かなと思ったのですが、なんと自転車2台でした。自分がやっていることは棚に上げて、「よくこんな時間にこんな場所を走るな」と思いました。足を止めてばかりでペースが落ちていたのでお2人と共に上ることにしました。私と同じく雲海を見に来たようで、仕事の合間を縫って群馬から来られたそうです。枝折峠に上るのは5回目、

1週間前にも行ったそうだけど天気が悪く見られなかったとか。私は初めてだったけれど直感で見れると思っていたので「今日はきっと見えますよ」と。まあ走っている途中に雲が自分を包んでいたし、きっとね。ある程度着いて行きましたがブルベに出ていそうな方たちには着いて行けず10分で千切れました。「先行って下さい！」



5:50 日の出直前には空が急激に明るくなるものです。まだ頂上には到着していませんが、これまで一度たりともその色を見せなかつた木々が、次第に本当の姿を見せます。散っているものもありますが紅葉はしっかり残っているようです。

この日で唯一残念なのは枝折峠の核心部を明るい時間に通過できなかったこと。まあ夜ヒルクラも面白かったので悔いてはいませんがね。ここは1度で楽しみ尽くせる道ではないのです。

5:59 枝折峠頂上 1,065m に到着！



この狭い道で路駐している車が見えだすとゴールはもうすぐ、何とか日の出 6:09 より早くに上り切りました！やはり駐車場は満車で、登山の格好をした方が多くバスで来たと思われる比較的軽装の方もいました。

どうやら雲海は枝折峠頂上からは見えならしくどちらに進むべきか少し迷いながらも自転車を停めて必要なものを持った上で更に高い所へ歩きます(登山道)。左下の移動ログに示す通り、最終的には 1,065m から 1,160m まで登りました。

6:04 道中 日の出まで 5 分



自転車を担ぎ上げたいなと思っていたのですが道はこれまでより遥かに狭くて急ですし、人の目があつたので早々に無理だと悟りました。登り始めてすぐの所では道がドロドロになっていました。

6:08 滞り場所探索中 日の出 1 分前



歩いているとすぐに雲海が見えてね、ああやはり直感 + α 通りだったな。

どこで日の出と滝雲を見届けるか場所を探して先へ進んで行きますが、良い場所は大きな三脚を立てた年季の入った写真屋さんや若いフォトグラファーに占拠されていました。そのため更に高い所へ、更に遠くへと足を進めます。

綺麗に見える写真はよく SNS に流れてきますがその景色から左右に目を向けてみると人で一杯だというのが実感しました。

去年 9 月に草津合宿に行った際、お昼頃に国道最高地点渋峠で雲海を見たのですが、綺麗だなとすらも何も感じずあまり強い期待はしていませんでした。果たして少しの苦しみを越えた先に運を伴って枝折峠から見る雲海はどんな感情を呼び起こしてくれるのだろうか。(次ページ、横向きでごめんなさい……。)



2023/11/03 6:23 新潟県魚沼市枝折峠より眺む「滝雲」と朝日のコラボレーション

一見しても目の前に滞留する白いものが雲なのか水なのか判断が付かなかった。雲海という呼称があるが、個人的には海があるなら陸もあってこそより魅力的だと思う。あれ？だったらこれは雲湖……、うんk(略)。

視覚だけではない全感覚器官で目の前の「現象」を感じよう。この「景色」ではなく「体験」はこれまでで4番目ぐらいには入るかなと結論付けた。

感想

前ページで少し書きましたが、結構良い体験でした。去年見た渋峠の雲海は天辺の眺望ポイントから物理的に距離が離れていた一方、今回は間近に存在していたので迫力がありました。目の前の雲が湖面だと言われても信じてしまいそうな美しい溜まり方、これだけでも満足でしたがメインは滞留した雲が山を越えて滝のように流れ出す滝雲です。もちろんしっかり動画に収めています。右下には雲海へ突っ込む国道 352 号とついでに路駐の車を捉えており、左下の黒いものは背の高い三脚と足場を立てていた前の人操るカメラの先っぽです。今時の人は「ふおとしょっぷ」とかいうので反射的に消してしまうのだと想像していますが(それ以前にフレームに入れないでしょうが)、私はこの映り込みを許容します。あまり過度に現実の構成要素(この場合周りに人がいること)から目を背けた切り取り行為はしたくありません。他人のカメラが映り込んでも許容できる心持ちです。

雲海を見たい人へ

公式ページ : <https://www.iine-uonuma.jp/osusume/7070/>

まず行き方ですが交通手段によって通れる道路の選択肢は異なります。

A. 自転車・バイク

小出の駅前に宿があるのでそこに泊まるのが良いでしょう。相当早くに出る必要があり私と同じことをせねばなりません(夜ヒルクラなど)。通れる道はただ一本国道 352 号のみです。銀山平に宿泊する場合を除いて反対の福島県側から行くのは現実的ではありません。

B. 徒歩

新潟側からだだとシャトルバス発車位置が小出駅から遠いので大湯温泉など近隣の宿泊施設に泊まって早起きするのが良いです。もしくは福島県側の銀山平に泊まってシャトルバス。

C. 車

私は車に詳しくはないのですが、国道 352 号を新潟県側から上るのはやめておくことを勧めます。暗闇の中対向車が来ても知りませんよ。車なら奥只見シルバーラインで銀山平に抜けて福島県側から枝折峠に上った方が良いんじゃないかなと思います。こちらもまた道は狭いですが。

滝雲を見られる条件

1. 早朝
2. 晴れの日
3. 前日からの気温差が大きい
4. 適度な風がある日
5. 運

基本的なことは先述のリンク先によく纏まっているのでそちらを参照して下さい。実際行った者として一点だけ挙げるなら天気予報を参考に気温を想定して寒さ対策をしておくことです。私が行った時は最低 3°C でした。

6:27 流れている部分をズームアップ



残念なこともありました。一眼カメラと望遠レンズそして三脚を持って行ったのですが、私の腕が悪く上手く目の前の光景を映せなかったのです。加えて三脚を使おうとしたのですが自分の持つ三脚が他の人のものよりずっと小さいことに気付きました。私の三脚では茂みがフレームに入ってしまうのです。写真家の人がどうやって撮っているのかが少し分かり勉強になりました。今の自分が一眼を握って滝雲に向き合ってもきちんと撮れないと思ったから

iPhone で日の出付近の動画を撮っていました。少し悔しい思いをしたのでこれからはしっかり景色に向き合って写真の練習をしようかなと思います。レタッチに関してはいちいち RAW で撮ったらサイズが大きいの、私は今のところ体験重視ですからそっち[.]{1,10}に時間を使いたくありません。

6:59 撤退ライン



この後の道のりもまだ長いですから7時には撤退して下山を始めようと決めました。この頃になるとカメラを構えていた人たちを含め多くが散ってそれぞれの道のりを歩み始めました。左の写真は自分がいた証拠を残したかったので近くにおられた方をお願いして撮って頂きました。ヒルクライムで使った分の補給として麦チョコとピーナッツを食べ、飲料に関してはこの時点で残り 600ml と想定以上に消費しています。補給が確実にできるのは 65～70km 先なのですが……。

7:25 何十人と並ぶバス待ちの人、1 台の自転車



出発準備をしていると後ろを歩いていたカメラ持ちのおじさんが自転車で来ていることに驚き、「ファンキーだな！」と言って自転車の写真を撮っていました。富士山に自転車で上っている人は多く驚く人は少ないでしょうが、「枝折峠に、しかもこの時間に自転車が存在している」というのは皆道中を知っているはずですから驚くことなのでしょう。実際に午前7時時点で自転車は私しかいませんでしたし。そう言えば追い抜かれた2人の自転車乗りを見かけていないけれど峠を通り過ぎてしまった？いや5回目と言っていたし私が相当遅かったのでしょうか。

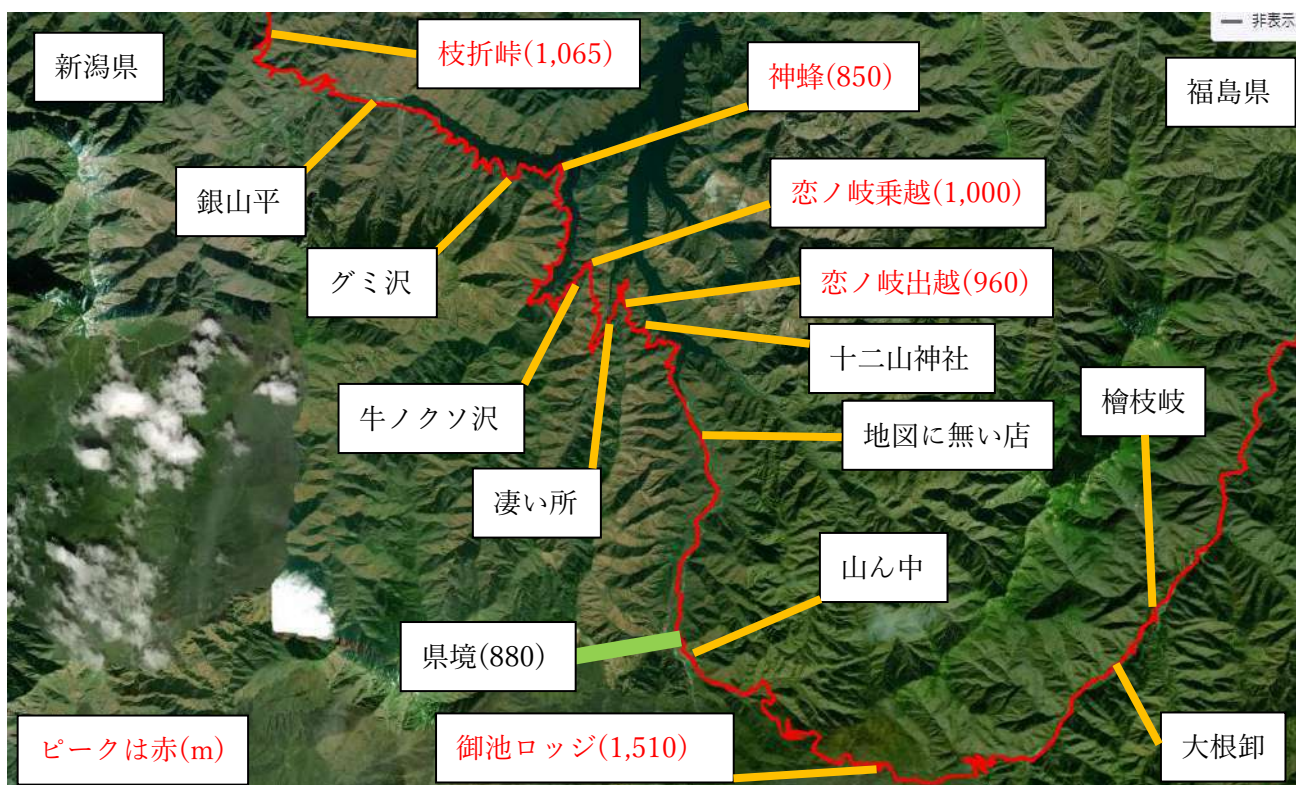
もう一方に声を掛けられました。彼は途中通ってきた温泉街に宿を取っており今日はシャトルバスで枝折峠まで上って来たそう。話を聞くに彼も自転車を持ってきているようで翌日に只見で宿を予約していると聞きました。彼はシャトルバスで宿まで下って自転車で再び枝折峠に上がり、私と同じように檜枝岐まで抜けようとしているみたいですが時間が厳しく日が落ちてしまうので困難だという方向に纏まりました。今枝折峠にいる私でも油断できない時間ですし、数の限られたシャトルバスに何十人と並んでいるため温泉街まで下りるのも時間がかかるというのもありました。檜枝岐周辺でキャンプ場、コテージなどを探していたみたいですがちょっと難しいんじゃないかと伝えました。私も檜枝岐エリアの宿泊を最初は検討していたため民宿以外にもキャンプ場なども見ており、結果として泊まれる場所が1つもないとの結論に至ったのです。あるキャンプ場は10月下旬で営業を終えているし(これが最も多かった)、またあるキャンプ場は10/31で営業終了どころか閉業していました。お互いに「気を付けて」と言って私は檜枝岐を目指して、彼は真逆の小出へ向けて出発します。

滝雲に関して1点。その場にいた人の会話を盗み聞きするに、この日の滝雲はあまり雲が流れていなかったそう。後にHPの写真を見てみると確かにその通りで、まだまだ上の景色が存在しているようです。やはりここにはもう一度来たいです。

7:30 枝折峠出発

辺りは既に明るくここからは目的としていた紅葉を楽しむ時間です。
ここからは凄い景色が続きますから画像サイズが大きくなりがちです。

枝折峠～檜枝岐村マップ(約65km)



枝折峠を越えたとして小ピークが3つと大ピークが1つ残っている中々ハードなコースです。

枝折峠～銀山平～グミ沢

標高 1,065m の枝折峠からは稼いだ標高を銀山平まで消費し続けます。銀山平の標高が大体 760m なので 300mDOWN です。しかしこの日この時間に関してはただのダウンヒルではない！

7:32



下り始めてすぐに現れるのは新潟や長野など豪雪地帯に見られるスノーシェッド(ロックシェッドだったらごめんなさい)。これでも国道だと折れながらも主張する標識と一緒に一枚に収めてみました。シェッドの窓となっている規則的なバツ印が土木構造物として美しいし、シェッドがカラフルに染まった山を横一直線に削っているのがまた良いです。紅葉していない緑もあるけれど、赤に黄色に様々な色が入り乱れているのであまり気になりません。明るい時間に枝折峠新潟側も見なかったなあ！



歩いていた女性 2 人組もやはり自転車に驚いていました。

道路上には沢の名前を示す看板がいちいち立っており最寄りのチェックポイントまでの距離が書いてあり助かります。ここは明神沢と言ひ、尾瀬 53km、銀山平 5.5km だそうです。写真撮影もほどほどに更に下ると「良いへアピン」、そして雲海へ体を沈めることになります。

7:45 良いヘアピン+雲海



枝折峠の福島県側、シェッドを抜けて少し行った場所も雲海のビュースポットとして知られており、先ほど枝折峠+100m の位置から見下ろしていた滞留する雲海を目の前に眺める形となります。更に眺望ポイントは続き、今度は個人的に好きな線形をしているヘアピンカーブ地点です。本記事の 1 枚目を飾った写真はここで撮っており、被写体が強いいため何を撮ってもそこそこ良い写真になります。写真撮影はほどほどに。朝早くに枝折峠を上ることで透き通った雲上の世界から雲中へとダイブするという体験ができます。まあ言葉ではそんな風に飾る事ができますが、雲海の中を走るというのは個人的にはそこまで好むものではありません。実際の所、想像通り視界が若干ぼやける程度で意外性はないし、動画を撮っている GoPro に水滴がついて視界が曇り、路面は濡れているしメガネも曇って雲量によっては下るのが怖いです。渋峠ダウンヒルは視界が曇って怖かったけれど、それより今朝の濃霧の印象が強烈でした。道路に関してヘアピン区間は片側 1 車線ありますがすぐに道幅が半分ほどになりこれまでと同じような狭い峠道となります。下っている最中に対向からシャトルバスがやってきて自転車の私は端に寄り後続の車たちは待避所まで鬼バックを強いられていました。それこそ 1 車線の醍醐味かも？雲海の中であっても紅葉はそこそこ綺麗でした。

7:56 下りきって銀山平入り



8:06 「急カーブ連続 24km」 ←こんなの初めて



下りきった銀山平では雲が晴れて視界がクリアになると思っていたのですがこの標高にも雲が存在しています。左上の写真の T 字路では右から下ってきて手前へと走ります。奥へ行けば宿泊施設が 3 軒ほどと銀山平温泉があります。

ここから奥只見湖畔のワインディング区間まではほぼ平坦で宿泊施設、奥只見シルバーラインの入口、遊覧船船着き場と通り過ぎます。途中の宿泊施設前に自販機があって休憩と荷物整理を兼ねて止まったのですがよく見るとテープでコイン投入口などが塞がれており使えないみたい……。また、ここから車でシルバーラインに入るとすぐ分岐があり左へ行けば小出方面へ、右へ行けば行き止まりの奥只見湖北部へ行くことができます。奥只見湖の北側に何とか自転車で辿り着けないかと調べたのですが廃道も何もなく不可能だという結論に至りました。シルバーラインは殆どトンネルなので奥只見湖北部は孤立しているのです。車を持っていないのなら遊覧船に乗ることで行けますが、車を持たずにどうやってこの山奥に体を存在させられるのでしょうか。やはり徒歩は全てを解決する……。まあ半分冗談で本数の少ないバスが浦佐から銀山平、奥只見湖まで出ているので。奥只見湖と言えば 2023/11/5 に湖北に位置する奥只見レイクハウスが長年の営業に幕を閉じるという知らせがありました。行けなくて残念。

遊覧船乗り場には大きな船が停泊していましたが船の足元が見えない……。写真がないのですが雲の上に船が浮いていました。船着き場を抜けると地図にあったグネグネグネグネした道が永遠に続きます。



8:22 退屈な景色

雲のせいで路面が常に濡れているし光が射さないせいで紅葉の輝きが見られず、「雲が晴れてくれないな……。このままずっと雲の中なのか？」と気分は沈みます。ところでこうやって移動している時には基本的に前方を向いていますがたまには振り返って後方を見てみると良いです。案外見えるものが違って面白いですよ。なので同じコースでも逆から行ったらまた違う楽しみを見つけることがあります。

8:26 国道 352 号名物洗い越し



洗い越しは路上河川とも言い橋や暗渠を作るのではなく道に流してしまうというものです。国道 352 号奥只見エリアでは沢水が道路と交差するように洗い越し場所が何十とあります。右上の写真において横一直線に水が溜まっている(僅かに流れている)ものがそうで、この先もっと激しく流れている洗い越しも登場します。おかげでタイヤが乾くことはあまりなくブレーキが効きにくいので注意して走行します。

グミ沢～神蜂～牛ノクソ沢～恋ノ岐乗越

8:32 グミ沢に到着



まずグミ沢という名前が面白いです。ここには国道 352 号魚沼～檜枝岐区間で唯一のトンネル「グミ沢トンネル」が存在しており国道のくせにトンネル内に一切照明がないことが特徴です。また、名前とその暗さに意識が行ってあまり知られていない気がしますが、グミ沢トンネルには旧道「旧グミ沢トンネル」が存在します。

8:35 301m の真っ暗トンネル



8:47 所沢から来られた夫妻



トンネル手前(新潟側)には駐車場があって車が 1 台停まっていた。自転車を停めて写真を撮っていると声を掛けられて少し話すことに。前日からこのエリアに来ていたようで、前日夕方過ぎには枝折峠頂上で月の出ていない時間帯に肉眼で天の川を見られたそう。私が上っていた時は星が見えないわけではなかったけれど月明かりで走れるほどには明るかったの本来見えるものも見えなかったのでしょうか。車中では貰ったという新潟県産コシヒカリを蒸らしている途中で暖かいお茶も入っており、こういうのも悪くないなと思いました。いや、普通に羨ましい。補給に困っていた私にお菓子を少し恵んでくれて良い方でした。普段は釣り(というか海の生き物を獲ること)をよくやっているそうで写真を沢山見せていただいたのですが、大きいカニを何十も獲ってカニフルコースにしていたのは笑いました。まだまだ自分は世界が狭く、話を聞いてみると面白い人はいるものですね。(色々見せてもらったけれど割愛)

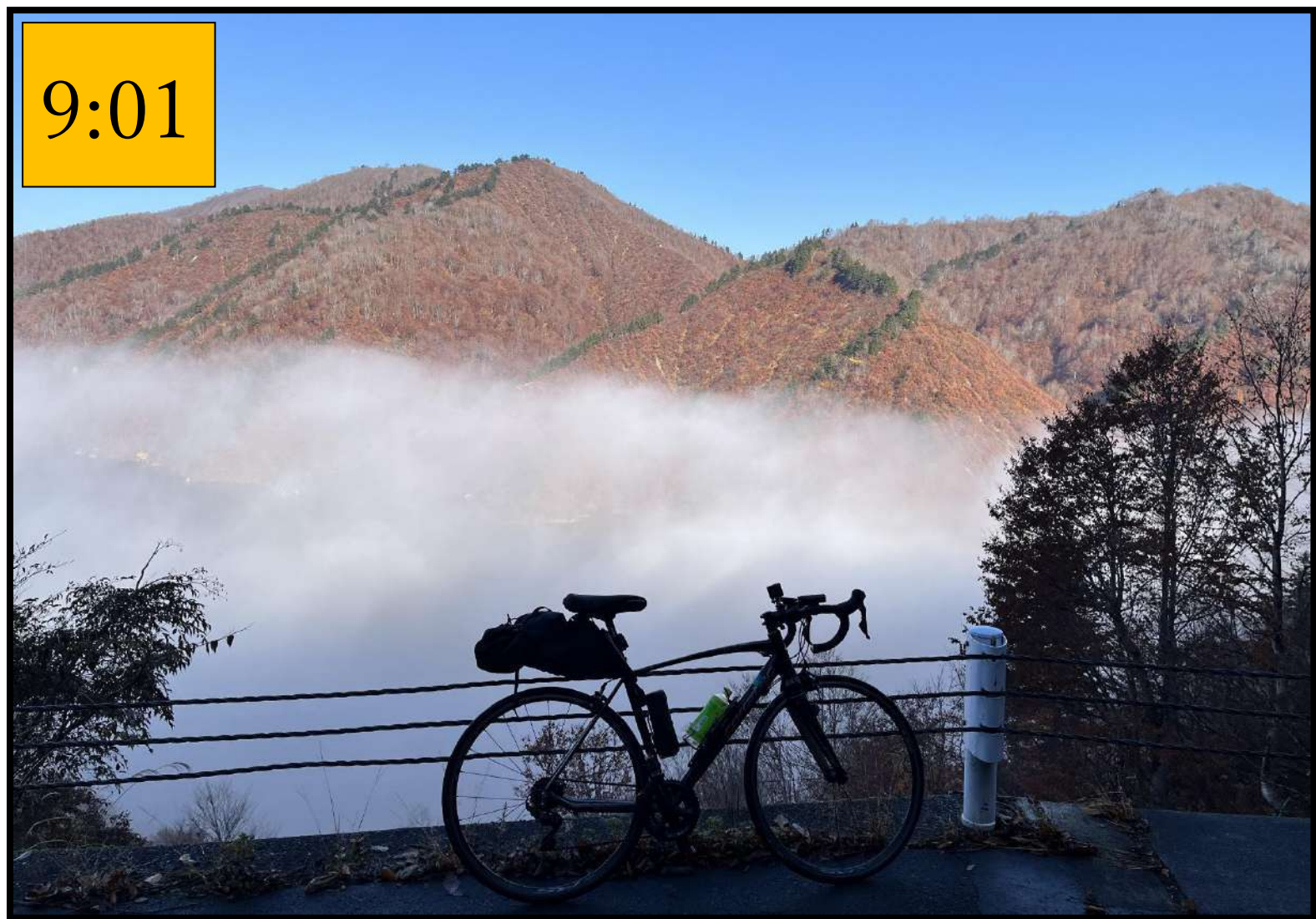


8:54 雲が晴れてきた!?

埼玉夫婦に別れを告げて真っ暗なグミ沢トンネルの反対側へ。旧トンネルはこの季節でも現道から視認することはできず藪に分け入りますが足が濡れるので途中で撤退しました。そしてトンネルのあちらとこちらで雲の様相が異なることに気がきます。空が青いぞ!

後方から自転車が 1 台来たので何となく逃げて先へ進むとそこに見えたのは……。 (少しずつスクロールして!)

9:01



9:05



もう凄い一言ですね。着いた時には上の写真の雲のラインと目の前一面を染める朽ちかけの輝きに感嘆して写真を撮っていたのですが、僅か 4 分で視界は激変して雲が綺麗さっぱり流れて行きました。改めて目隠しのなくなった目の前の山を見てみると、上の方は既に落葉している木も多いですが落葉から朽ちかけの赤、盛りの黄色と標高差によるグラデーションが面白いです。尾根に沿って緑が連なっているのは何なのでしょうね。埼玉の夫婦と長話をしていなければ雲に文句を垂れつつ通り過ぎていたのではないか、枝折峠を早く上りすぎていても同様、偶然にもベストタイミングでこの位置に来られました。今思ったのですが、国道 352 号の魅力の 1 つとして「迂回路がない」というのがあると思います。自転車由来の以上シルバーラインすら使えずただ目の前に続く 1 本の頼りない道とどこまでも向き合う必要があります(余計なものに目がいかない)。そして志を同じくする車やバイク、自転車の人と抜かし抜かされ時に言葉を交わしつつ 1 本道の先にあるはずのゴールを目指す。走っている時は基本孤独ですが 1 本道のどこかに(時には谷を挟んだ対岸に)仲間がいるのだと考えると勇気が湧いてきます。

9:09 神蜂(かんばち)



小ピーク 3 つのうち 1 つ目かつ最弱の神蜂です。看板には銀山平から 8.7km で県境まで 26.7km と書いています。ここには駐車場があって眺めが良く奥只見湖が峡谷のように見えます。なぜか私はここで写真を撮らずスルーしてしまい、神蜂を下ってから後悔していました。下る途中に「ここは携帯電話圏外」と主張する看板があるのですが、それ以前も圏外だったような。1 本だけ立っていた気もしますが尾瀬手前まで SNS を見られなかったのは事実です。

9:16 実際こう見えます



9:20 光の当たり方でこうも違って見える



これまでのランで見てきた紅葉と比べて一段と綺麗な景色が飽きるほど続きます。体験ではなく景色として比較するなら、今まで奥多摩、日光などで見てきた紅葉とはレベルが違いすぎます。この先も紅葉を見に出かけることはあるでしょうが、奥只見を知ってしまった以上少し冷めてしまいますね。

NC の先輩で数年前の同じ日に奥只見へ行かれた方を見つけて少し写真を覗かせて頂いたのですが、この年ほど赤く染まっておらずまだ黄色や緑が多い写真でした。今回は運が良かったと思いますが、自然の機嫌次第でこうも見えるものが変わるのかと驚きました。

9:28 中ノ岐川



地図を見ると分かるのですがこの辺りは山肌に沿って道が続くのでこの先走るのであろう道が見えるのです。対岸へ渡るために標高 760m まで下り、中ノ岐川を渡って 1,000m の恋ノ岐越えへと標高を上げ始めます。

左が橋から撮った写真ですが、この渓谷 1 つでも(このクソ山奥に無ければ)十分観光地になりそうですし、自分の中では何回も見てきた奥多摩の渓谷に勝っています。この標高では紅葉もカラフルで盛りという感じですね。こんな景色が当たり前のようにあるのが奥只見。

9:33 流石に腹減った



橋を渡ってから上り始めということでスパン長めの九十九折りがありますが、ここで休憩。枝折峠からほぼ飲まず食わずで近いうちに走れなくなる予感がしました。昨日買っておいたおにぎり 3 つのうち 2 つとお茶を流し込みます。

上って写真を撮ってを繰り返して 30 分後の標高約 900m 地点では下のような素晴らしい眺めがありました。

10:02 [奥只見湖と唯一の道、国道 352 号]

間髪入れずに現れたのは……。





何も文句のない景色である。朽ちかけの緋色、鏡となる奥只見湖、山肌を削る唯一つの道、地味に映り込む月。
しかしこの地、名を「牛ノクソ沢」と言う。

後ろから車が来ましたが道が狭くて停車ができないので走り去っていきます。小回りが効きいつでもどこでも停止できるのは確実に自転車の魅力の1つです。おかげでスタート地点とゴール地点を結ぶ道中にある全てのものに自由に向き合うことができます。そういった楽しみ方は自転車と徒歩以外ではできないと思っています。それってバイクも同じなのでは?と思われるかもしれませんが、はい、しかし今回に限らず彼らバイク乗りが私の停止している、道中の綺麗な景色があるポイントをスルーするのを数えきれないほど見てきました。普段出すスピードが違うと感性も異なってくるのでしょうかね?この辺に関しては後で少し書こうかな。

基本的にガードロープが設置してあるのですが牛ノクソ沢だけロープが途切れてポールが立つのみです。これはおそらく先述の「洗い越し」となっており今は水が流れていないだけであると考えました。沢のおかげで視界が開けており、良い写真を撮ろうとグラつくポールに自転車を立てかけますがこれが結構怖い。下を覗いてみるとかなりの急傾斜で自転車や物を落としてしまうと回収不可能でしょう。怖いのでさっさと済ませます。

国道352号のストリートビューは緑の季節なので比較すると面白いです。↓牛ノクソ沢の夏

https://www.google.co.jp/maps/@37.0942378,139.2175564,3a,75y,305.78h,79.61t/data=!3m6!1e1!3m4!1so33x1e1_hpKIInkzo_EcO0A!2e0!7i16384!8i8192?hl=ja&entry=ttu



自転車だからこそこういう発見がある。



10:11 2つ目の小ピーク「恋ノ岐乗越」標高1,000mに到着



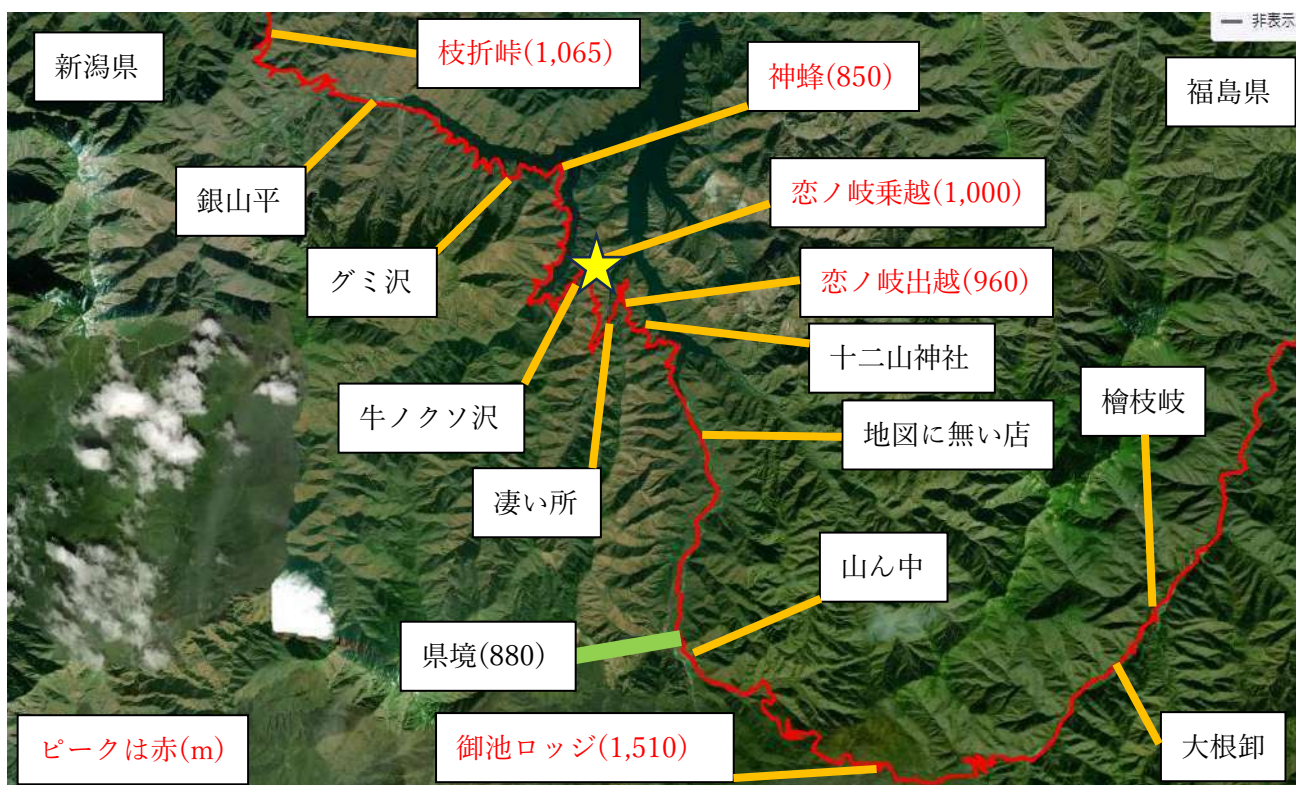
看板によると銀山平18.4km、県境17kmとのことで県境までまだ半分です。そしていつまで経っても見えてこない尾瀬への分岐……。

牛ノクソ沢で写真を撮っていたら後ろ(新潟側)からチャリダーが来て軽く挨拶だけしました。名を「たま」と言います(伏線)。

人つながり書きそびれた話ですが、グミ沢トンネルで出会った埼玉夫婦にはトンネルを出て暫く行った所で抜かされました(伏線)。

恋ノ岐乗越～凄い所～恋ノ岐出越～十二山神社～地図に無い店

枝折峠～檜枝岐村マップ(約 65km)再掲



前に地図を掲載してからページが開いてしまったので再掲します。現在地は星の地点です。

10:13 携帯電話通話可能(ドコモ)5km 先 10:24

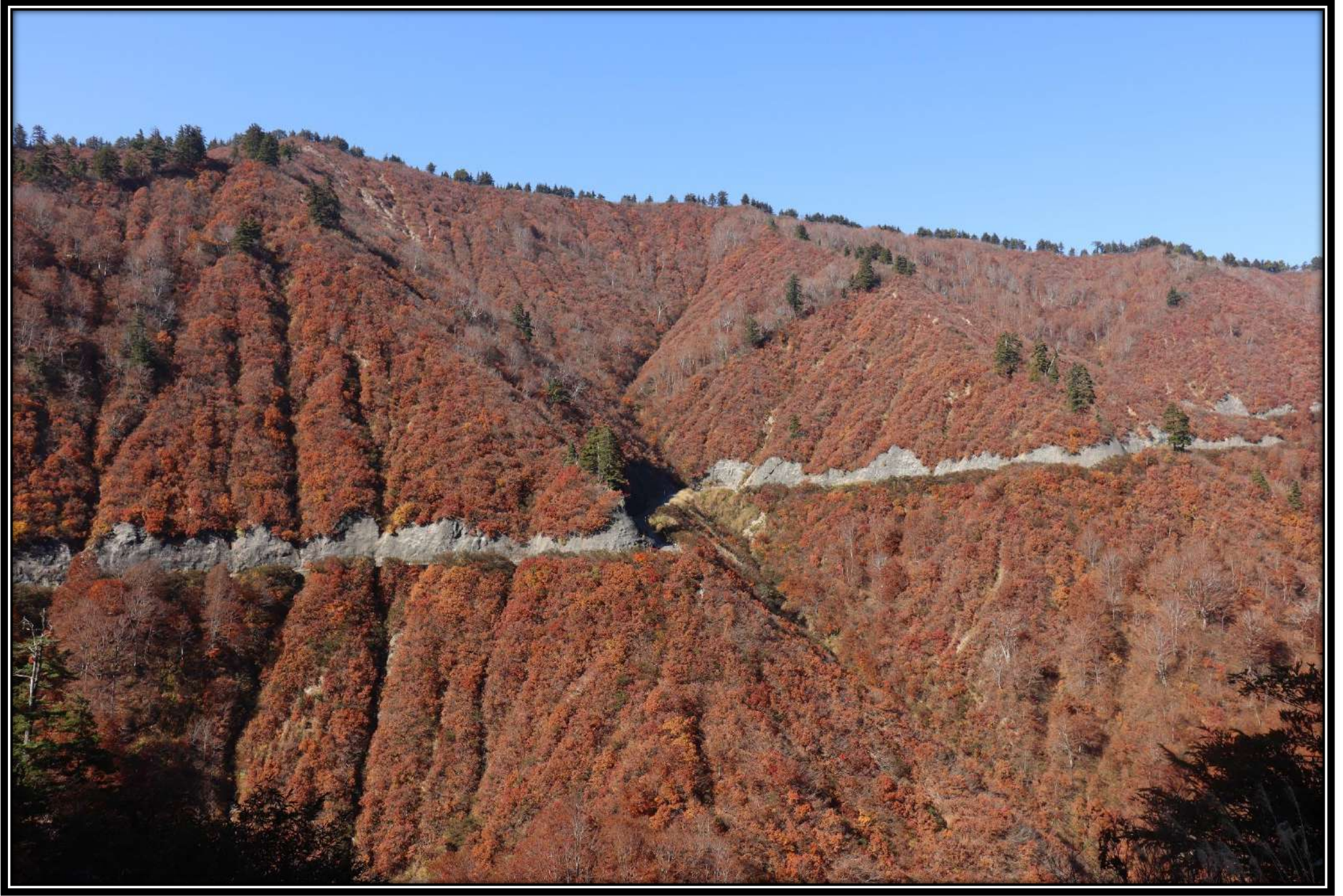


わざわざ看板が立っているということはこれまでの区間では電話がかけられなかったのかな。



恋ノ岐乗越(1,000m)からは恋ノ岐川を渡った対岸へ行くために再び下って標高 820m へ、そこから上って小ピーク 3つ目である恋ノ岐出越(960m)を目指します。

その前に、「凄い所」へ。(横向きごめんなさい)



国道 352 号でも屈指の絶景区間

2023/11/3 10:38

個人的にはこの「凄い所」と勝手に言っている場所が最も良い景色だと思います。この写真では太陽光が対岸の紅葉の壁面に当たっていますが方角からして午前中にしか見られない光の具合だと思います。であるならば、この景色は長岡を朝の1時ぐらいに出ないと見られなかったわけです。

それにしても対岸の天辺にすら紅葉が残っており、年ごとに比較した色づき具合は除いてタイミングとしてはこの1年でベストな時期に来たのではないのでしょうか。

私が写真を撮る前に一人のチャリダーがここで写真を撮っていました。ウェアが緑だったので記事では緑の人と呼ばせて頂きます。彼は私とは真逆である檜枝岐側からやってきたようで、残り距離を考えて内心「早くない?」と思いました。私の方からは長岡を朝の1時に出てやってきたと伝え、彼は只見駅を朝3時に出て今ここにいるそう。このまま枝折峠を越えて今度は国道252号六十里越峠を通過して只見駅に戻るらしい。只見駅からここまでは大体100kmだからまあ普通のペースか、でも六十里越まで越えようというのは凄い。私も考えたけれどある程度の時間内に走り切れる自信がありませんでした。まあ5月に六十里越は走っているからと言い訳をしておこう(紅葉だとまた違った姿だろうけれど)。



左の写真は望遠レンズで対岸を見たものであり、よく見ると坂を上っている緑の人が映っています。1本道だからこそこの写真に新しい意味が生まれるように感じます。

眺望の観点ではメインと言っても良い区間なのでしばらく撮影を行います。狭い道なので望遠レンズが使いにくく頑張っただの際まで寄ったなあ。



10:40 携帯電話通話可能



10:45 送電線



景色は良いのだけどそろそろ同じような紅葉にも飽きてきました。奥只見ダムと繋がっていきそうな送電線を通り過ぎたら最後の小ピークである恋ノ岐出越まではもうすぐです！



ご丁寧に設置された携帯電話通話可能区間終了の看板を通り過ぎて、10:48 に標高 960m の恋ノ岐出越へ到着しました。

記憶では景色が良いのはここまでですが、奥只見前半区間でハードルが上がっているのは否めず決してこの先の景色が悪いというわけではありません。

標高 960m から 200m ほど下って最後の山場である尾瀬の大ピークを目指します。

下りの途中に十二山神社という場所があり寄っていきます。位置は看板によると銀山平から 26.0km、県境まで 9.4km だそうです。

10:53 十二山神社



歴史背景を知らない上、現地にあった説明看板を撮り損ねたのでネットをソースとして少し書いてみます。石碑をよく見ると「大福銀山十二山神社」と書かれています。江戸時代の話です。丁度今いる場所を流れるのは只見川、銀が発見されたことで越後の高田藩と会津の会津藩で争いが起きますが只見川中央が藩の境と定められました。越後側では上田銀山が、会津側では白峯(しらぶ)銀山が開かれ合わせて大福銀山と呼ばれました(先ほどの恋ノ岐川流域も銀山だった)。ダムを作る前は奥只見湖ではなく銀山湖と呼ばれており、ダム建設にはありがちな話ですが集落が沈んでしまいました。江戸時代の越後国高田藩が銀山開発に着手した明暦 3 年(1657 年)に作られた十二山神社がダムに沈むことになったため現在の位置に移されたというわけです。銀山開発の際に誤って只見川の河床を掘りぬいてしまうなどの水没事故で上田銀山は再起不能に、その 100 年後のダム建設で銀山の坑道の多くは沈んでしまったそうですが、水没を免れた間歩(まぶってこう書くのか!) が少し残っているそう。それが上の写真から下った所にあったのに……、あったのに!!!



私が十二山神社に着くとそこには自転車を停めた先客が一人いました。先ほどちらっと触れた「たま」さんです。



関東かなと思っていたら何と彼ははるばる岐阜から車で来たそうで驚きました。この日彼は檜枝岐に宿を取っているようで私と行き先が同じだったので一緒に走って頂くことになりました。この場で改めてお礼申し上げます。まだ後ろ(新潟側)にいる知り合い2人と走ると伺い岐阜の友達と来たのかなと思ったのですが、Twitterの知り合いだそうです。インターネットの知り合いと会ってはいけませんが(笑)、そういうのも楽しそうで良いなー。

彼は軽装な荷物で背中にカメラをかけるというスタイルで走っており、速度なんかは気にせずちょくちょく止まっては写真を撮るという走り方をしているよう。そして「鄙びた旅館」が好きだと聞いた瞬間「これは話が通じるな」と勝手に喜んでいました。檜峠や紀伊の国道425号も走られていたし。

10:59 話していると……？



2人で話していると福島側から1台の車がやってきて窓が開きます。ああさっきの！！埼玉夫婦が窓から顔を出して、「もう少しできのこ汁が食べられるよ」と教えてくれました。さっき書いたけど1本道って面白いよね。本日3回目の埼玉夫婦でした。

食べ物はピーナッツがあるものの飲料が枯渇してずっと飲めておらず予想外の補給チャンスがやってきました。それに奥只見のきのこ汁に期待が高まっていました。

11:13 地図に無い店到着



たまさんもきのこ汁を食べることにして、十二山神社から洗い越しをいくつも越えて下り続けます。きのこ汁を食べることは確定していたのですが、何と言えはいいのか、武士の格好をしたおじさんに「こっちこっち」と自転車を誘導されます。彼はお店の客寄せパンダみたいな存在なのかなあ。

300円のきのこ汁と安かったから赤ダイコン150円を頼みました。



このきのこ汁は過去一番美味しく、食レポは不得手なのだけど具沢山できのこが分厚く噛み応えがあつてとにかく美味しかったです。



この良い意味で雑な感じ、ルールに縛られていない感じが幸せ。机の上にあるものは食べて良いよと言われたので適当につまみながらきのこ汁を啜りました。なお、注文していた赤ダイコンは漬物のことだと思っていたのですが大根丸1本だったのでキャンセルしました。流石に大根背負って走るのはしんどいからね。車で来た2人組と相席しましたが何を話したのか忘れました。国道が閉鎖されるとこのお店には行きようがないのであと2、3日で閉めるのでしょう。話を聞くに、冬場は5mの積雪があるそうで一晩で1m積まることもあるのだとか。正直国道352号の冬季閉鎖について、閉めすぎだろと思っていたのですがこれほどの豪雪地帯なら仕方ありません。左の写真はこのお店のメニュー。いかにも山の幸というメニューですねえ、まあこの山奥でマグロとか並んでたら意味が分かりませんが。

ここで補給情報。テーブルの後ろでは水がパイプから豊富に出ており野菜か何かを洗っていたので、一声かけてペットボトルに汲ませて頂きました。思ったけれどここに水道って来ているのかな。水道が来てもそうでなくても、あの豊富な水は川か沢から引いていると思います。ストリートビューを見ると電気は来ていると分かります。山での暮らしなど、その辺のお話を聞けばよかったな(普段なら絶対に聞いていたんだけど疲れていたのかな)。

夏の地図に無い店(やはり水は豊富に出ている)

<https://www.google.co.jp/maps/@37.0613642,139.2519335,3a,49.1y,281.03h,89.48t/data=!3m6!1e1!3m4!1smbFdHVOXdLW57lCS1CqCoQ!2e0!7i16384!8i8192?hl=ja&entry=ttu>

11:32 武士さんとたまさんと写真



武士さんは埼玉からバイト?ボランティア?で来ているそう。本当に面白い人が多いですね。写真はお店の80を超えたおばあちゃんに撮ってもらいました。刀の持ち方を教えてもらって、はいチーズ!

銀山平からの長い無人地帯を抜けてこの地図に無い店を過ぎるとポツポツとキャンプ場やカフェ、家?倉庫?など人の痕跡が現れます。只見川に沿って会話をしながら県境へ、残りはたったの5kmです。

私「自転車に関して速度はどうでも良くて自分の旅行をどれだけ面白くできるかしか考えていない。」

地図に無い店～県境～山ん中～御池ロッジ

かつての高田藩と会津藩の境だった只見川を渡れば、やっと新潟県から福島県に入ります。

11:51 新潟県の看板



11:52 ここだけ上高地みたい



11:53 福島県の看板



丁度対向からバイクがやってきて私と同じように写真を撮り始めます。ここでは自転車もバイクも考えることは同じですね。福島県側の看板は自転車2台で撮りました。さて、ここからは880mまで下げた標高を尾瀬分岐に向けて一気に1,540mまで上げる苦痛が始まります。

県境～御池ロッジの大ピーク

上り坂は地図に無い店の辺りから既に始まっていますが県境まで100mUPでまだまだ肩慣らし程度。御池ロッジは標高1,510mで最高地点のように思われますが、実際のピークはロッジ手前にある1,540m地点です。県境からピークまでは11.4km722mUP 平均5.8%ですが平均斜度というものには往々にして詐欺であり、県境から2.3kmの平均斜度は2.9%であるのに対して実際の所は次の7kmが7.1%、最後の2.1kmが3.5%となっています。あまりに斜度が厳しいというわけではありませんが枝折峠+小ピーク3つ+乏しい補給で体力が削られている中上るには悔れる坂ではないでしょう。

11:55 山ん中



県境からすぐにポツンと立っているカフェ「山ん中」が現れます。電波も入らないしアクセスが悪すぎて「これは山ん中だわ」と思いました。この立地と環境は堂々と山の中と名乗っていい。営業中の看板が「もういいよ」となっているのも面白く、次に来た時は入りたいです。メニューは少ないものの定食などを食べられるので補給ポイントとしても期待して良いみたいです。ラストコンビニより70km弱。

御池ロッジ新潟側の上りではこれまでのように視界は開けず木々の中をひたすら行く道となっています。ただ「鬱蒼とした」というほどではなく光も射すのでテンションは下がりません。こういう区間もあった方が変化に富んで良いなと個人的には思います。

上りですが記憶にあるのはしんどかったことばかりです。早々にたまさん(12km/h ぐらい)から千切れてしまい序盤から 10km/h も出ないこともありました。序盤で千切れてしまい頂上に着く時間差が結構大きいだろうなと思い、「無視して下っちゃっても良いですよ」と言えなかったことを上りながら悔やんでいました(言おうとしたけれど声の届く距離じゃなかった)。

12:10 標高 1,020m 地点 何回も標高を見てた。まだ着かないのかな……って。

12:17 休憩しないと無理だ……



休憩しようにも自転車を立てかける場所がなく自転車と折れ曲がった上体を支えながらサドルバックを手探り柿ピーの袋を開けて食べていましたが自転車が暴れだしてこぼしてしまいました。水を飲んでいたらまた同様にペットボトルが坂を下り出すし。普段なら拾い集めて食べているけれどこの時は拾う余裕もありませんでした。しばらく後、再び停まっておにぎり1で補給。

12:49 標高 1,300m 地点 停まって標高を見てまた走って。



←13:05



13:14→
ピーク手前

ピークを越えて下りが始まるので GoPro を回しようやく御池ロッジに到着しました。結構待たせているだろうからたまさんは先に行っているだろうと思ったのですが、待って下さっていました。

御池ロッジ



ありがとう、遅くなってごめんなさい。普段は殆ど運動をしておらず、たまに 100km ウォークや 200km ライドといった激しいワークアウトをするという生活なのですが、普段から体を動かすのに留まらず筋トレとかした方が良いのかな。あと彼のバイクとは機材差があるようです。デュラエースのパーツが所々見られたしビンディングとフラペの違い、あと私の過積載もあるか。これまで自転車に対して前にさえ進めば良いと思ってきたので少しは機材を選んでみても良いのかも(言い訳じゃないよ)。

一応小出のラストコンビニから檜枝岐まで無補給で走る想定でいたのですが、御池ロッジは補給ポイントとして期待して良さそうです。山に行く人の拠点にもなっているはずなので自販機にトイレに食べ物に色々揃っています。そう言えばトイレを見るのは枝折峠頂上の仮設トイレ以来か。好きなココアだけ飲みました。

13:46 重機で塞がれる尾瀬分岐



13:49 謎バス停看板



御池ロッジから尾瀬への分岐があるのですが、今の時代にこの道を自転車で上っていいのかがイマイチ分かりません。調べると警備の人に声を掛けて上ったなどと書かれた記事がありました。群馬・福島県道 1 号沼田檜枝岐線は尾瀬に車両不通区間を抱えており行き来はできません。自転車を担いで尾瀬の木道を通って県境越えができないかと何回か考えましたが、今の生きづらい時代では無理でしょう(すぐ SNS に動画上げられるし嫌な時代)。そういえば富士山に自転車を担ぎ上げたいのですがこれもまた今の時代では不可能でしょうね。

食わず嫌いだけど尾瀬にはあまり興味が湧きません(時間が経てばまた思いも変わるのでしょうか)。所詮は水溜まりだろうと思うし、植生は興味深いけれど私は北海道の霧多布湿原、標津湿原、名も無き湿原に魅了されてしまったので(釧路湿原は微妙)。まあそのうち行くでしょう。

檜枝岐に行くなら裁ちそばは外せず、たまさんがお店を調べて下さっていたので 15 時閉店(ラストオーダーは大体 30 分前)のお店に向けてダウンヒルします。ここからは只見駅まで下り坂しかないので楽に距離が稼げます。



(左 : 13:56 良い水の流れ、右 : 14:02 道中)
(下 : 14:08 尾瀬国立公園で記念撮影)





私もたまさんも走りながら気になるものがあればその都度停まって写真を撮るという走り方をするのですが、走っていると面白い地名を発見します。

「見て、だいこんおろし。」

「よく見つけますね。」

14:16 福島県南会津郡檜枝岐村大根卸



バンガロー&キャンプからまつさんのブログによると、読み方は想像通り「だいこんおろし」であり何でその様な地名なのかは定かではないとのこと。

地図に無い店を抜けてから檜枝岐村ではここが一番面白かったな。こんな標識1つも私にとっては観光対象であり常に周りに注意して走っていて良かったです。後ろの終わりかけの紅葉と錆具合が良い味を出しています。

下っている途中にミニ尾瀬公園がありましたが、そば屋の営業時間を鑑みて食事を優先しました。大した距離ではないし時間があれば後で戻って来よう。檜枝岐村中心部に辿り着き入ったお店は「お食事処開山」、14時半ギリギリに滑り込みました。14時半の数分後に入ってきた方は追い返されていたので本当にギリギリセーフ！盛りそばしかないけど良い？と聞かれたけどもちろんOK。そばを味わいたいので具は余計でしょ。別の店ですが裁ちそばとはっとうは5月の自転車旅行で来た際、温泉で知り合ったJR東日本の社員さんに奢って頂き美味しさを知っていたので、たまさんの分もはっとうを注文。檜枝岐に来たのなら絶対に両方食べるべき。

14:36 旬の裁ちそば！



14:38 はっとう！！



檜枝岐村は標高の高い寒冷地であり稲作ができなかった中、栽培できるそばが昔から工夫して食べられてきました。檜枝岐のそばにはつなぎが入っていないため切れやすいのが特徴であり、裁ちそばという名はそばの切り方に由来するそう。

<http://www.naf.co.jp/maruyashinkan/soba.stm>

「はっとう」はそば粉ともち米をよく練って延ばし、ひし形に切ったものをゆでてじゅうねん(えごまの福島での呼び方)やきな粉につけたものです。これが上品な甘さで美味しいんですよ。

そばは檜枝岐の他にも先ほど通った大根卸の辺りでも作られているそう。今回来たのは11月上旬と新そばの時期にドンピシャで当たりました！

(あー、そばと言えば幌加内にもう一度、今度は収穫の季節に行きたいなー。)

色々机上で調べていると檜枝岐という小さな村に興味が湧いてきました。やはりもう一度、今度は檜枝岐の宿泊込みで行きたいな。

そばをお腹につめて先ほど通り過ぎたミニ尾瀬公園へ。

14:57 ミニ尾瀬公園到着



尾瀬の代替として捉えていたこの公園は結構気に入りました。コンセプトとしては尾瀬の季節を一足早く、気軽に体験できる公園として平成11年にオープンしたものです。

結構広くてニッコウキスゲを始めとした草花が咲く山里・山野草エリア、湿原エリア、ロックガーデンの他にも展示施設など楽しめる空間となっています。

紅葉は標高の高い所から終わっていくという認識ですが比較的標高の低い檜枝岐で上部は散っています(標高 950m でした、全然低くないです)。自然は難しい。

これまで枝折峠を始めとして「マクロに見た紅葉」つまり紅葉した木群を俯瞰してきましたが、このミニ尾瀬公園では紅葉している木1本や葉っぱ1枚に注目して行きましょう。思えば今日、木1本葉っぱ1枚に注目するのはこれが初めてです。



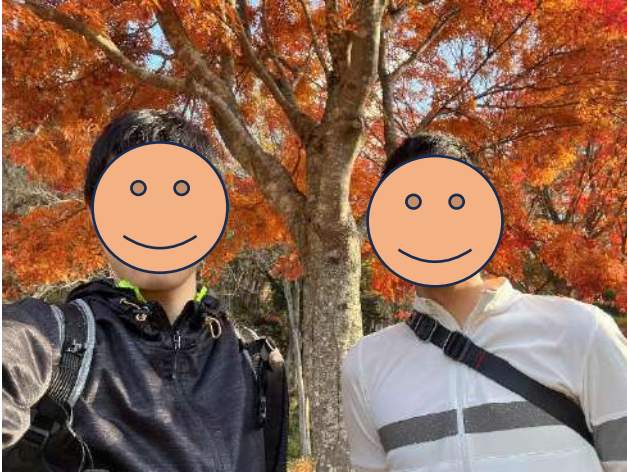
逆光が葉っぱを照らしてとても綺麗ですね。ミニ尾瀬公園は気に入りました。



2023/11/3 15:06

良い景色の連続で語彙が売り切れてしまったのだけど、これもまた素敵な空間でした。

15:12



十二山神社から行動を共にしてくれたたまさんともお別れの時間です。先述の通り彼は檜枝岐に宿を取っているのので、最後に1枚写真を撮りました。楽しかったです！ありがとう！



檜枝岐から只見までは残す所 60km であり下り基調です。只見線は本数が少ないことで知られ普段は1日3本、この時期は増便していたようです。只見駅発小出方面行の時刻表は、「9:30 小出行、16:31 小出行、20:03 小出行」でありこのうち 16:31 の列車に乗ろうとしていたのですが、景色が良く想定より時間がかかったので朝の段階で 20 時の列車に乗る事に決めていました。4 時間の余裕が生まれたのでのんびり写真を撮ったりゆっくり坂を上ったりしてました。列車までは 5 時間弱あるということで去年 5 月には入れなかった尾瀬檜枝岐温泉「燧の湯」で体を休めることとします。本当は秘湯を守る会の旅館ひのえまたの風呂に入りたかったのですが、コロナの影響か何かで日帰り入浴をやっていませんでした。

さて、燧の湯ですが入浴料は 1,000 円(高いけどこれまで頑張ったのだからということで抵抗はなかった)で単純硫黄泉、内湯が 1 つと露天風呂が 1 つあります。(もちろん個人の)感想としては 1,000 円には見合わないなという感じです。体が伸ばせて疲れを鎮められたのは良いですが、この近辺に 300 円で行ける木賊温泉共同浴場と 300 円で 4 湯入れて雰囲気も良い湯の花温泉があるのでそれらと比較してしまうと……。毒沢鉱泉は 1,000 円でも良かったのですがね。列車まで時間があつたのでのんびりしてしまい風呂を出たのは 16:09 のことでした。出走しようとした所、チェックインして外出した後宿に戻って行くたまさんとすれ違いました。こんにちは、今度こそさようなら。

16:16 尾瀬檜枝岐山旅案内所



ふと標高を見てみると 950m で驚きました。体感 500m ぐらいだったのですが、これは稲も育たないな。

5 月に食べさせてもらったそば屋を通り過ぎて道の駅尾瀬檜枝岐へやってきました。観光案内所だけチラッと見て気になるパンフレットを取りましたが、道の駅はスルーしてしまいました。温泉でダラダラしたせいであまり時間の余裕がないのです。山に登ってきたという女性が興味深そうに自転車を見ており、少し今日の旅を共有しました。

檜枝岐～只見駅



星印が現在位置であり、只見駅まではずっと下り基調で60km540mDOWNという道のりです。道中には温泉が少しあるぐらいであまり面白味はないかもしれません。5月にもここを通ったのですが、先述したJR東日本の方が運転する車で楽をして、しかも車内で寝ていましたからほとんど記憶がありません(この話はEx2で書きます)。

現在時刻は16時過ぎで列車は20:03であることから、下り基調であることを加味してパンクが無ければ間に合うように思えます。しかし、日の入り時刻が16:43と早いので明るいうちに距離を少しでも削りたい所です。2時間半で走ったとしたら只見駅着が19時頃、トラブルが無ければ只見で晩飯が食べられるでしょう。

16:34 屏風岩



16:58 国道352号の右折地点、国道401号へ



17:25 遠かった……、魚沼以来のコンビニ!!!



檜枝岐から下る道はシェッド(覆道)とトンネル続きで暗いので路面に気をつけて走らねばパンクしかねません。屏風岩で一瞬写真を撮って再出発、明るいうちにできるだけ距離を稼ぎます。

これまで魚沼から走ってきた国道352号は残り43km地点で右に折れ、そこからは国道401号を走ることになります。5月に入った古町温泉赤岩荘を通り過ぎて国道289号分岐地点に着くと魚沼以来のコンビニ(ハローショップこはまというローカルコンビニ)です。セブンイレブンに行きたければ国道

289号を更に25kmほど会津田島まで行く必要があります。

この時点で残り 32km ですが山奥は暗くなるのも早いものでもう真っ暗になってしまいました。

……。

足が痛い。

左膝が痛む。

……………。

17:50 シェッドやめてくれ！

18:10 ヤマザキショップ



明るいうちに距離を削りたかったのに加えて檜枝岐付近に多くあると思われるシェッドをできるだけ処理して(通り過ぎて)しまおうと思っていましたが、結構走ってもシェッドが現れます。怖いからもう出てこないで。

喉が渴いたので道中いくつかあるヤマザキショップに寄ることにしました。でも走っていると眠気が襲い掛かり、意識朦朧としながら走っていると一度ふらついてしまい危険だと感じたので停止します。記録のために書いておくと ENEOS 只見 SS の地点、菊池商店の横側。自転車を停めてピーナッツを齧り、ふと空を見上げます。そこには満天の星に「天の川」が見えるではありませんか！(写真はありません。) 辺りは真っ暗で月がまだ出ていませんが、ここまで見えるのかと驚きました。まあこれより一段上の星空：冬の糠平、-18°Cの五の沢から眺める空を知っていますが。埼玉夫婦が見たと言う枝折峠からの星空がいつそう見たくなりました。

眠気も覚めたので少し走って残り 18km 地点、ヤマザキショップ只見川原田商店へ到着。甘いジュースとグミを食べました。コンビニ前の椅子に座って休憩していたのですが、その間に地元の車が何台か入って買い物をしていました。思い返せば普通のコンビニよりは品揃えが良い気がして、スーパーの代わりとして地元の方に利用されているのでしょうか。

残り 18km で約 45 分なのでトラブルが無ければ只見で晩飯を食べる時間を残して駅に到着しそうです。余裕があればあるほど良いので只見駅到着 19 時前、正確には駅付近にある「お菓子の店三石屋」の閉まる 19 時に間に合わせてお店に入ることを目標にスピードを上げます。

左膝が曲げ伸ばしをすると痛い……。鶴ヶ島 100km ウォークで壊した左膝はやはり完治していなかったか……。左膝では強く踏めないのでアンバランスに右足を中心として踏みますが、やはり左が痛みます。何とかパンクを起こさずに只見駅周辺までやってきました。最後の最後に暗いシェッドを抜けて見覚えのある只見湖から流れる只見川を渡ると安心感で溢れます。ギリギリお菓子屋さんに行けそうで進行方向左に注意して駅方面へ走ります。工事で舗装が剥がされておりタイムロスをするなどしましたが……。只見駅に着いただと……。？実はお菓子の三石は進行方向右手にあったのですが左しか見ていなかったのので駅まで行ってしまいました。とりあえず 18:58 只見駅に到着！

18:58 只見駅到着！



檜枝岐からの 60km はコンビニ停止を除けばグロス 24 で走ったようです。列車は 20:03 なので 1 時間を残して只見駅に到着したことになり、晩飯を食べることができます。Google Maps で調べた結果駅近の定食屋に行くことにしました。走りだそうとしますが左膝が痛くて慎重に、足を労わるように体を動かし、入ったのは和食レストランまほろば(後で知ったのが、三石はこの隣の店でした)です。ロコミで見たソース煮込みかつ重を注文、再度言いますが食レポは不得手なのでか普通に美味かったとだけ言っておきます。

19:20 ソース煮込みかつ重←うまい



ようやく落ち着くことができたのでかつ重を食べながら今後について考えを巡らせます。既に今日出発した長岡駅前のビジネスホテルを予約しており、只見線最終只見駅 20 時 3 分発で小出駅 21 時 26 分着、50 分待ちで上越線に乗り換えて長岡駅 22 時 52 分到着というのが予定でした。ここで翌日のことを考えると、長岡駅から再び只見駅まで輪行してきて会津若松方面へ行けるところまで行くという計画でした。朝の只見線がネックになり小出駅発 5 時 36 分の次は 9 時丁度発であります、只見線始発に乗るには今朝と同じことを

して長岡朝 3 時発で小出まで走らねばならず現実的ではありません。取れる選択肢は只見駅 9 時発で只見駅に再び 10 時 29 分に戻ってくる筋のみです。まあそれでも良いかな、明日は雨が降るみたいだけど嫌になったら本数が少ないけれど只見線に乗れば良いし。それで只見線最終から磐越西線に接続して最終の東北新幹線で帰ろうか。方針が定まりました。

19:38 退店

今日で只見駅は 2022/10/1 の運転再開から 398 日だそうです。急ぎ目で輪行をして 19:55 完了。

19:56 過疎すぎるダイヤ：1 日 3 本

| 只見線発車時刻表 | | 只見線発車時刻表 | |
|----------|-------|----------|-------|
| 上り | 下り | 上り | 下り |
| 5 | 15 | 5 | 15 |
| 6 | 16 | 6 | 16 31 |
| 7 11 | 17 | 7 | 17 |
| 8 | 18 01 | 8 | 18 |
| 9 | 19 | 9 30 | 19 |
| 10 | 20 | 10 | 20 03 |
| 11 | 21 | 11 | 21 |
| 12 | 22 | 12 | 22 |
| 13 | 23 | 13 | 23 |
| 14 35 | 0 | 14 | 0 |

20:02 発車 1 分前



20:01 ボックス席確保



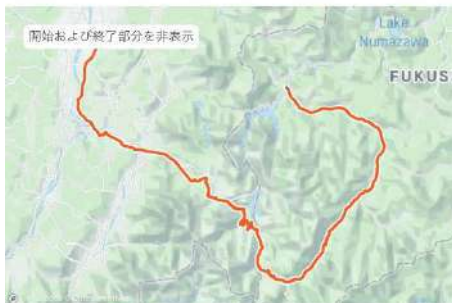
結局小出→長岡の切符は所持しているものの只見→小出の切符は購入していなかったため、念のため運転手さんに「切符持ってないんですけど」と確認したら発車してから車内で購入できるそうです。只見→大白川は時間がかかるから切符を売る時間もあるでしょう。

2両で走る只見線最終小出行きの座席占有率は50%と言った所でしょうか。ガラガラではないけれど沢山乗っているわけでもありませんでした。

🚗 今日 10:06・長岡市, 新潟県

奥只見、狂気の紅葉

2001
2003只見線最終で長岡へ退避



| | |
|-----------|------------|
| 距離 | 獲得標高 |
| 192.00 km | 3,357 m |
| 移動時間 | 平均パワー |
| 11:19:57 | 103 W |
| 平均速度 | カロリー |
| 16.9 km/時 | 4,668 kcal |

列車に乗ったのでここで Strava 計測ストップ。午前1時から午後8時、走行距離はログ飛びがあるので200km程度ぐらいでしょう。獲得標高は3,357mと結構上りました。そう言えば朝の10時頃にすれ違った六十里越峠を越えて只見まで行くと言っていた自転車の方はもうゴールしているかな。

20:35 大白川駅交換待ち



在来線駅間距離最長は北海道の上川→白滝 37.3km であり、只見→大白川は20.8km。駅間徒歩をするならこの距離が六十里越峠を含めた32.9kmへと化けるので駅間徒歩最難関は只見→大白川だと思います。

ちなみに飯田線の小和田→大嵐も歩いたことがあるけれど山道は楽しいし舗装路は基本下り基調で距離も30kmに比べれば短いのでそんなにしんどくはありません。只見→大白川はトンネルばかりで旧田子倉駅付近は視界が開けるけれど大したものが見えません。まして夜では何も。大白川駅のホームから眺めたこの先の線路の暗さが凄いですね、何という所を走っているのだ。小出方面からやってきた列車は何と「大白川行」!? 只見まで行くものだと思っていたのですが……。というかこれに乗って只見から大白川に行ってしまうと帰れなくなるの面白すぎる。あー分かった。小出駅の只見線終電は19時59分小出発大白川行き20時43分大白川着ですが、ここで只見駅始発会津若松行きを見てみると只見駅7時11分発です。その間は10時間48分で駅間は32.9km、3.046km/h……。やはりJR東日本は大白川から六十里越峠を夜に越えて只見へ抜ける人を想定していた……。RTA 何かでは使えそう、これがフラグにならないように祈っておきます(やろうと思えばできるので)。もう1つ因みに、北海道4,000kmという同人ゲームのRTAでは土幌線の糠平→十勝三股20kmを夏の夜に歩きますが、私は冬(2月と3月)の夜に歩くのを2回やっています。この話を含めて今年冬の北海道記事も書きたいけれどコンテンツがあまりにも多いから時間的に無理。私の記憶の中に眠るのみです。

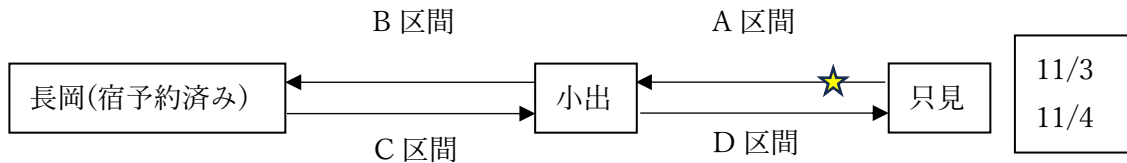
切符の発券

現在所持している切符

1. 飯田線の某駅→久喜(飯田線・川岸・東北・高崎線・上越・只見線・磐西・郡山・新幹線・小山・東北)
2. 小出→長岡(上越・信越)、有効 11/3~11/4、往復行き
3. 長岡→小出(上越・信越)、有効 11/3~11/4、往復帰り
4. 久喜から帰る切符

欲しい切符

1. 只見→小出



前提: B、C、D 区間は発券済みで A 区間の発券が必要

選択肢 1: 長岡の宿から小出の C 区間を明日の朝自走して D 区間は始発只見線で輸行

- ・この場合切符 3 (C 区間)が余る
- ・切符 3 を区間変更して A 区間に、つまり「長岡→小出」を「只見→小出」にする
- ・切符 3 キャンセル料 220 円+A 区間 990 円-B 区間返金 590 円=620 円支払い

選択肢 2: C 区間も輸行して 2 本目の只見線で D 区間輸行

- ・この場合切符は余らない
- ・A 区間 990 円支払い

冷静に考えれば上の通りなのですが、只見一大白川で車掌さんが回ってきた際に「小出→長岡」を「只見→小出」へと変更しようとしていたみたいです。でも車掌さんが往復乗車券をこのように変更できるのかを把握しておらず、結局 A 区間「只見→小出」の 990 円を追加で支払う選択肢 2 を取りました。

睡眠不足と疲れからか大白川を過ぎると小出まで寝ていました。21:25 小出駅に戻ってきました。

気付かなかったけれどこの写真はおかしい



小出で只見線→上越線の乗り換えをしますが朝 3 時に訪れた駅の待合所に腰を下ろしてダイヤを眺めると、待ち時間が 50 分もあることに気がきます。

21:29

21:32 「小出 44 分待ち」

おっ？

第 3 の選択肢

選択肢3: 長岡の宿をキャンセルして小出駅で寝れば良いやん!

なぜ駅で寝るという選択を旅行の計画段階から排除していたのか不思議でなりません。7月に行こうとして頓挫した自転車旅では峠駅で駅寝しようと色々調べていたというのに。

さて、この場合はB区間とC区間の切符が余り、始発只見線に乗るのが圧倒的に容易になるこの上なく合理的な選択肢でしょう。宿は快活 CLUB に変更することも視野に入れてキャンセル料がいない所を予約していたので 21:51 宿をキャンセルしました。気温はそんなに高くないけれど午前3時の時点で駅に入れることは確認しているので死にはしなないと思われまます。

乗るはずだった最終 22:16 逆方向の最終 23:02

23:58 面白い1日でした



翌朝の始発只見線会津若松行きが出発する 5:36 まで8時間ほど時間ができたので携帯を弄ったり待合室から乗るはずだった列車と本当の最終を見送ったりしました。小出駅の窓口は17時に閉まるのでそれ以降少なくとも目立つところは無人です。終電が行ってからも暖房の効いた待合室が閉鎖されずひとまず安堵します。お腹が空いたのとやましいことはありませんが警察に声をかけられると面倒なので、上手くかわせないかなと自転車を組み立てて0時頃にはコンビニへ行き駅を離れておきます。

11/4(2日目)

0:22 セブンイレブンから戻ってきました



1:00 再び輪行



正確には覚えていませんが外気温は 10℃前半と寒かったのでコンビニで買ってきた温かい天津飯が体に染みて美味しかったです。この待合室が使えなかったらどうしたのでしょうかね、まずはホームの小さい待合室へ、それもダメだったら……。跨線橋は風がある程度凌げるけれど気温が低くてここで寝るのは無理だなと悟りました。再び只見線で輪行するので早いうちに輪行を済ませておきました。

終電後の駅というもの

思い返せば終電後の駅を体験したのは去年の大晦日にマイナス 4℃の中高山本線某駅で駅寝をした時のみです。別に終電を逃して家に帰れなくなったという経験ありませんし。ああ、バス停なら 3 月に北海道の雄冬岬バス停で 12m の暴風が吹き荒れる中、小屋で寝た経験があるけれど。

終電後の駅の 1 つの側面として鉄道設備のメンテナンスや工事を行う時間というものがあります。客がいる間は列車が走っていますから保線などの作業は基本的に終電から初電までの短い時間で行う必要があります。極端な例として熱海らへんのある駅では貨物の関係もあり数十分しか時間がないということもあるそうです。私の居る小出駅でも只見線ホームの更に向こうで作業員の方が夜を徹して何か作業をされていました。また、貨物列車は昼夜問わず走っており羽越本線経由かな？貨物列車が通過していききました。そう言えば 24 時間前に長岡から小出へ自転車で走っている時にも見かけました。

0:42 終電後でも列車接近の警告放送が流れました



今度は駅の中ではなく駅の外に注目しましょう。駅前にはタクシーが 2 台停まっており私が待合室で過ごす中出たり戻ってきたりを繰り返していました。この時間でもタクシーを使う人がいるのですね。

1:03 新聞？



只見線と上越線の交点という地方のターミナル駅でも、駅前には案外終電後も騒がしいもの。タクシーにトラックにバイクに、騒ぐ若者に、人が絶えません。携帯を弄っているとついに駅入り口の自動ドアを開けて中に入ってくる人が現れます。なに？怒られる？その人物はドサッと何かを置いて出て行きました。どうやら新聞のようで、「小出駅卸 須原線 魚沼北 YC 殿 10 部」と書かれていました。おそらく個々の家に新聞配達をす

るのと同じで始発列車で輸送するのだと考えられます(駅員さんがこれを列車に積むのですね)。小出駅卸はそのままの意味、須原線とは何なののでしょうか。只見線の駅を書き出すと下の通りです。

1 小出—2 藪神—3 越後広瀬—4 魚沼田中—5 越後須原—6 上条—7 入広瀬—8 大白川—9 只見—
越後須原駅で下ろすのかは分かりませんが只見線に新聞を積むようですね。なるほどそういうことか。
ある駅まで運んでそこからはまた別の配送屋さんがバトンを繋ぐということです。物流~~~~~!!

晩飯を食べたりしていたら持ち時間が減って始発まで 4 時間半となってしまいました。流石に数時間は寝ないとこの後の行程に響くなと思って寝場所を探索しますが……。

1:08 嫌がらせやろ



1:11 ここ可能性ある



待合室の椅子の形状について、駅寝者からすると椅子と椅子を仕切る手すりのせいで寝る難易度が上がるのです。これ意図的にやってるでしょ、駅寝なんて普通するものじゃないし文句を言う筋合いはないのだけれど。体の姿勢を探索しますが椅子を使った上手い寝方が見つかりません。ふと待合室の隅を見ると平場があることに気付き息を吹いてから寝転んでみますが、窓の近くということで寒いし何より微妙に体がはみ出して落下してしまいました。痛いぜ。



2:07 寝る気が失せたので再び座りにくい椅子にかけてゲームをします。難しい難易度を試行錯誤してクリアできました。ランの最中にはゲームができないから上手く時間を作って結果的には良かったです。

2:09

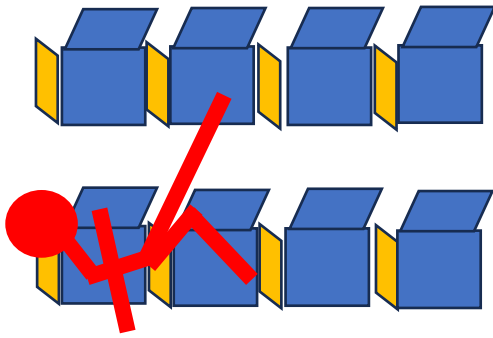


ゲームをしている最中の午前 2 時になんと待合室の電気が消えました。これで少し本当に少し快適に寝られます。

うーん、なんか暖房弱まってない？寒いんだけど。

後はどこでどういう姿勢で寝るかなんですよね～。

姿勢の探索でもっともマシな姿勢だと思ったのがこちら。



なんとなく分かると思いますが青が座席でオレンジは手すりを表しています。そんな環境の中、「こう」寝ます。終わってるわ。上体が曲がっているのと首を支えるものがないのがきつい。輪行状態の自転車を使うのも考えたけれど壊したくないからやめておきました。

面倒くさいので結局床にそのまま寝ることにしました。枝折峠の寒さを想定してウルトラライトダウンを持っていたので持っていない場合からは大分違ったでしょうが、それでも肌寒いです。まあそれ以上に眠たいから落ちることができたはずです(記憶が……)。輪行袋があればそれに包まって寝られたのですが生憎輪行状態なので不可。

私は慎重で注意深いので盗難のリスクはもちろん想定しており荷物の配置は多少考えていました。もう1つ注意していたのは寝坊のリスク、まあ寒いから大丈夫だとは思いましたが。

3:45 寒くて起きたのでしょ



4:51 寒くて起きたのでしょ



秋冬は寝袋がないだけで野宿は過酷になるでしょう。10°Cの雄冬岬バス停では4回以上寒さで起きたし-4°Cの高山本線の駅では寒すぎて起き、再度寝るのを断念しました。

睡眠時間は最大2時間42分、2時間半しか寝ていないみたいですね。現地では記憶が曖昧でどれくらい寝たのか分かりませんがタイムスタンプを残しているので推定することができます。11/17 現在思うけれどよくこんな行程をやったな。記事を書いている17°Cの室内でも十分寒いよ。

始発の只見線がどれほど混むのかは読めませんでしたが、とりあえず旅行をしていそうなおじさんが一人只見線ホームに向かうのが見えたので負けじと自転車を担いで追随します。

5:14 もう少しでドアが開く



朝5時の小出駅只見線ホームに私とおじさんと消灯した2両の列車。彼は東京から鉄道旅行で来ており小出駅前のホテルに泊まっていたそう。ホテルもコンビニもない〜という話をしていました。運転手さんが来ますがまだ(扉は)開かないとのこと。戻るのも面倒なのでおじさんと二人で話していました。しばらくするとそんなに多くありませんが続々と始発列車に乗る人がやってきました。

5:26 比較的暖かい車内へ避難



5:22 ようやくドアが開き座席を確保します。景色の点では進行方向右側に座るのが大白川～只見を楽しめて良いでしょう。おじさんは右手の二人席へ、私は自転車を置くため左手のボックス席へ。座席の占有率は昨日の終電よりは高く 80%といった所でした。みんな旅行客みたいです。

5:36 只見線始発会津若松行発車

注意しなければならないのは、この列車は只見止まりではなく会津若松まで行くこと。まあ着くのは5時間後ですがちゃんと只見で降りなければ行けません。おじさんに只見で降りるとは言っているから仮に寝ていても起こしてくれるかも。小出を出てすぐは辺りが真っ暗なのですが、6時前になると次第に空が白み始め紅葉が再びその色を現すようになります。おにぎりを食べて大白川まで睡眠。

6:21 大白川で列車交換(左が話していた方)



6:56 また霧！！



切符は車掌さんが少し戸惑っていたけれど2日前に小出で途中下車した扱いになっている長距離片道切符を提示しました。「ここです、只見線。」と経路を指し示しました。

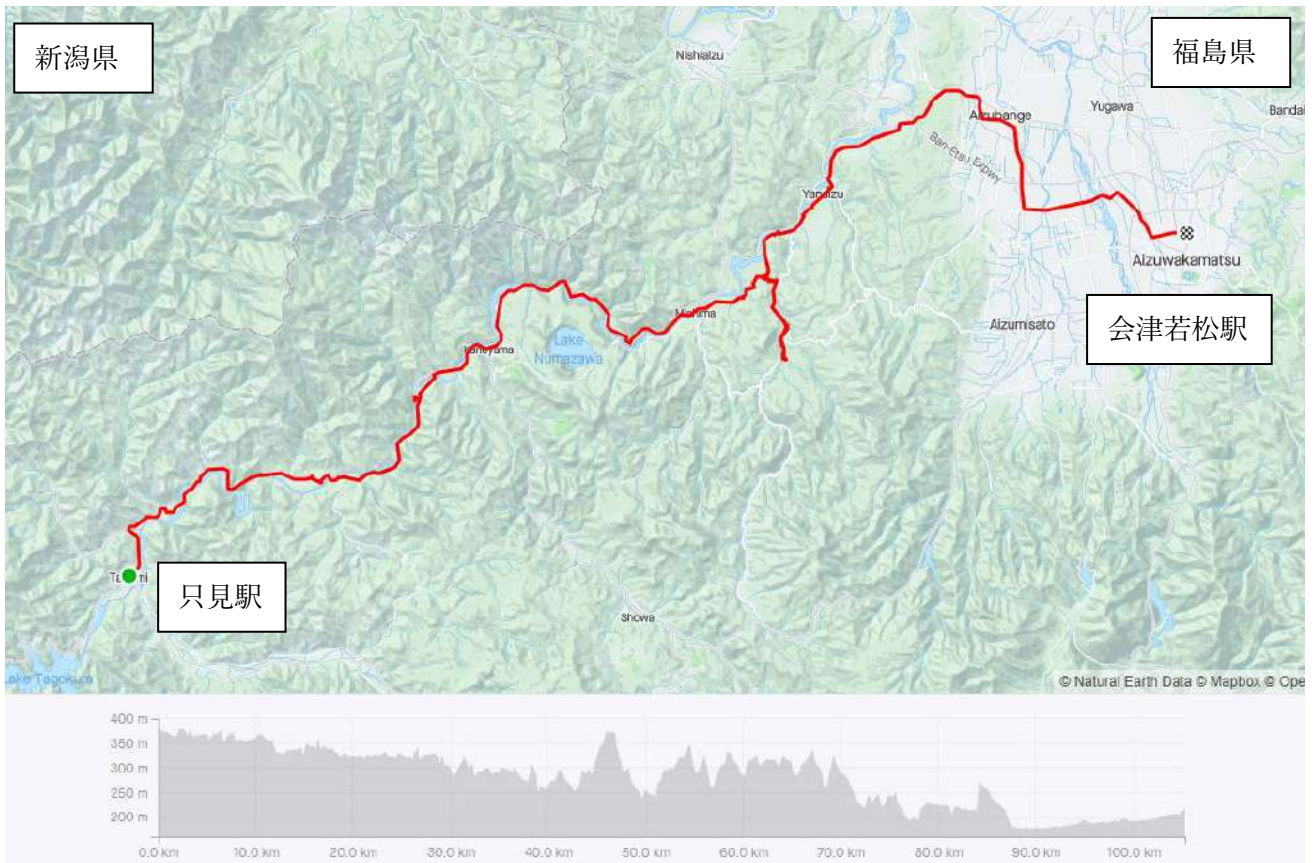
大白川からはやはり景色が良く、5月に走った道を眺めながら紅葉を楽しみました。新潟福島県境、六十里越峠の下をトンネルで通過して旧田子倉駅付近の一瞬だけ暗闇からは抜けるのですが、その一瞬に飛び込んできたのが「霧に覆われる田子倉湖」です。朝の時間帯に六十里越峠を走るのも面白そう。またトンネルを通過したのち霧に覆われた只見の町へ到着です(7:01)。



「気を付けて。」

「ありがとうございます。楽しんで。」

11/4 の走行ルートはこんな感じ。



本数が少ないとはいえ鉄道沿いを走るので昨日よりはかなり気楽に走れます。只見駅は標高 371m で会津若松まで緩い下りが続くと見せかけてアップダウンを伴った道です。只見線は只見駅以東に乗ったことがありませんし、並走する国道も走ったことがなく初めてのエリアです。この日私が目的としていたのは「温泉」(特に炭酸泉)であり、次に只見線の橋梁を見ることでした。インスタグラムなんかを見ていたら只見線の橋梁と列車を撮った写真が不定期に流れてきます。ところでこういう写真を撮る人たちは果たして只見線に乗ったことがあるのでしょうか。まあそれを言うなら都市部で買った青春 18 きっぷを使って只見線に乗っても只見線の売り上げにはなりませんけど。だから真に売り上げ貢献をしたと言えるのは昨日買った「只見→小出」の 990 円だけなんですよね……。車社会だから仕方ないよな～。

7:23 霧×只見駅



愚痴は置いておいてさっさと輪行を済ませます。先述した通り今日は午後が雨予報なので午前中のできるだけ前へ進みつつ嫌になったら輪行して帰るというスタンスで行くことにします。

そういえば只見駅まではさほど混んでいなかったのですが只見駅で結構な数が乗車してきました。午前 7 時の列車なら早起きせず無理なく乗れますね。逆に降りた人は私ともう一人自転車を担いだ人と、あと 2 人(不明)ぐらいいたかな？

9 只見～10 会津蒲生～11 会津塩沢～12 会津大塩

青看板曰く会津若松までは 84km と思っていた以上に遠いです。

7:32 格好良すぎる山



7:36 思わず立ち止まる



今日走るのは国道 252 号、昨日の 352 号から番号が 100 小さくなりました。入りたい温泉がいくつかあったのであまり立ち止まらずに行こうと思っていましたが、上の景色を見て立ち止まり中々出すのが億劫なカメラまで使って撮影しました(右)。国道 289 号の不通区間八十里越への分岐を過ぎて暫く走ると。

7:45 会津蒲生駅の裏にそびえる、会津のマッターホルンこと蒲生岳



格好良すぎますね……。これで山頂の標高は 828m あるそうで時間があれば登ってみたいなあ。会津のマッターホルンという呼称は Google Maps に蒲生岳(会津のマッターホルン)として登録されていたので真似しました。

この辺りからです。足がおかしくなったのは。

またまた左膝が**痛い!**

奥只見では何ともなかった足は檜枝岐から只見まで走る間に 100km ウォークで壊れた左膝の痛みを発症し、今日も走り始めて間もないのに痛んでいます。これは痛みで輪行ルートか〜?

安静にしていたら良いのですが、たとえ歩行でも曲げ伸ばしをしだすと常に痛いですよ。そしてたまに条件は分かりませんが**声を漏らしてしまうほどの痛み**が膝へピンポイントに走ります。後者の痛みが発生するとその後数秒は痛くてとても動かせません。その後は膝の曲げ伸ばしを気持ち抑えて後者の痛みが発生しないように祈りながら走るのです。それでも強い痛みは走りますが。下り坂は重力と慣性に任せて足をあまり回さずに進みます。

7:51 第八只見川橋梁



7:58 視界の果てまで続く塩沢スノーシェッド



初めて会津エリアを道路に注目して旅したのは今年5月のことですが、覆道(ロックシェッドとスノーシェッド)の多さに驚きました。北海道の国道229号はその地形の険しさから落石対策としてロックシェッドが多く設置されていますが、会津地方を始めとした豪雪地帯はスノーシェッドが数多く設置されています。

8:05



こんな洞内分岐とは違うけれど覆道とトンネルが分岐しているような景色が当たり前にあります。覆道は本州にはあまり設置されていないと思っていました。ちなみに右が国道252号で左は滝発電所へ通ずる道です。

これから会津平野まで隣を走る只見川にはダムがいくつか設置されているので、上流から見て行きましょう。まず田子倉湖の水は昨日走った奥只見湖から来ています。この接続されている

川沿いに林道でも良いから道があれば楽しいんですけどねえ。奥只見湖には奥只見ダム、田子倉湖との間に大鳥ダム、田子倉ダム、金山町の滝ダム、本名ダム、上田ダム、三島町の宮下ダム、柳津町の柳津ダム、会津坂下町の片門ダムがあります。ダムカード収集が大変そうですね。

炭酸の町

会津塩沢駅を通り過ぎてしばらく行くと只見町を抜けて金山町に入ります。金山町には炭酸が湧くということで炭酸井戸や炭酸泉の温泉があり、Google Maps で見つけて以来ここに行きたいなと思っていました。

8:08 楽しみにしていた野良炭酸水！



8:09 国道から逸れて徒歩で下って行きます



8:11 えっ……、これ飲むんかよ……



痛む足に顔を歪めつつ国道沿いに停車。炭酸水を汲むことを想定して只見駅で買っておいたペットボトルを携えて徒歩で沢へ下って行きます(すぐそこ)。そこにチョロチョロとパイプを通して炭酸水らしき水が流れていたのが左の写真です。Google Maps では星 3.3 であり口コミ曰く、「水は流れておらず淀んでおり猿がいた」、「藻が育っている」、「ミミズが入浴中」とのことです。どんなゲテモノが出るのかとビクビクしていたのですが、まず一見して虫は浮いていなそうで良かったです。でも口コミ通り藻が遅しく育っています。

取り敢えず手持ちのペットボトルに汲んでみると濁ってるし！まあ少なくとも口に含んで炭酸が含まれるか確認はせねばならないので、意を決して泥水を口に含みました。強いわけではありませんが確かに口の中をシュワッと刺激する感覚は確かに炭酸だ！流石に飲むのは抵抗があって炭酸を楽しんでから吐き出しました。うう……、口を濯ぎたいな。

湧き水は全国に腐るほどありますが、炭酸水が湧いている場所なんてここ以外には知りません。自然って凄いなマジで。炭酸水って湧くものなんだ……。調べてみると日本で天然炭酸水が湧く場所は殆どないようです。2023 年の G7 広島サミットで金山の炭酸水が卓上水として並んだんだって。凄いね！

せっかく天然炭酸水という珍しいものが湧いているのだから滝沢天然炭酸水もしっかり整備してくれれば良いのにと現地では思ったのですが、自然に任せるという意味で1つぐらい自然の中にひっそりと湧いているものがあるのも良いのではないかと今では思います。なんでもかんでも整備するのは好きではないのです。似たような話で今日 11/17 の北海道新聞で糠平湖全体に電波が入るようになったとありましたが、あそこは不便さと歩いている時の絶望感・孤独感を感じていたかったから電波は入らないままが良いです。超少数派の意見でしょうが。

会津大塩駅に近付いて足の痛さから早く大塩温泉で休みたかったのですが、我慢して先にもう一か所の天然炭酸水を飲みに行きます。大塩天然炭酸場へやってきました。

8:24 大塩天然炭酸場の炭酸井戸



8:28



先ほどの野良炭酸水と違って大塩天然炭酸場はきちんと整備されており誰でも炭酸井戸を使用することができます。前にいた女性2人組は車で来たそうで2L ペットボトルを何本も用意して炭酸水を井戸から汲み上げていました。何でも炭酸水でお米を炊いてみたいそうです。炭酸井戸の奥にある手水のような所でもチョロチョロと炭酸水が流れておりその場にあるコップで飲むことができます。先ほどの泥水と違って今度は味わうことができました。スーパーなどに売っている強い炭酸水と違って炭酸は弱めだけど優しい口当たり、普通の水よりは好きです。前の2人が汲み終わったので井戸へ。小窓を開けて井戸を覗いてみると「ボコボコボコボコ」激しく湧いていて見るだけで楽しいです。温泉が湧くのもこんな感じなのかな。今思えば井戸を使ったのはこれが初めての気がします。小窓から紐のついたやかんを井戸に降ろして汲み上げますが、スマホ片手に動画を撮りながらは無理でした。汲み上げたやかんから手持ちのペットボトルに移し替えてボトルホルダーへ。後ろのバイクのお兄さん、お待たせしました。ここは会津大塩駅から歩いて行ける距離なのでぜひ行って見てください。



8:37 大塩温泉共同浴場

炭酸井戸を楽しんだらすぐ近くにある大塩温泉へ。まだ 20km も走っていないけれど膝がしんどくてここで休憩を入れたい。金山町は炭酸の町、炭酸水が湧くぐらいですから温泉も炭酸泉であって、入ると体中を炭酸に刺激される感覚を味わいたいと期待していました。

9:26 内部



この日は温泉に何湯か入ったので 10 点満点で点数をつけると 2 点です(別に不快だったという訳ではありませんし 9 点や 10 点などまず付けません)。入浴料(協力金)は 300 円と標準的、浴槽は内湯 1 つと只見川を眺められる露天が 1 つありました。朝早めに行ったつもりですが地元の方と旅行客で結構混んでいました(浴槽がさほど大きくないのもある)。湯は鉄を含む赤褐色。問題は期待していたほど炭酸を感じられなかったという点で、内湯は全く、露天は微かに泡が腕に附着するかなという感じで肌の刺激は全くありませんでした。熱

いというほどではありませんでしたが、どちらも温度が高く炭酸が抜けているのだと思います。確かに炭酸泉であるけれど、この時自分が求めていたものがなかったという点でこの点数を付けます。もちろん、痛む膝と体を休める場としては良かったです。同じく炭酸泉でこの前入った島根県の三瓶温泉某旅館の湯なら 8 点は固く 9 点を付けても良いかな。

眠気が……！

激しい運動をしておきながら睡眠時間は快活 CLUB ブースの 5 時間半→駅寝の 2 時間半と来ていますから流石に眠く、温泉で体が温められて風心地よい露天風呂で寝落ちしました。温泉を流さずに服を汚してしまったこともあるので一応シャワーで流して服を着ますが、着るものの多いこと！

右左靴下、右左足サポーター、パンツ、クッション付きの履くやつ、インナー黒、インナー蛍光緑、ウルトラライトダウン、アウター、ズボン、右左手袋と着るものが多く数えてしまったよ(13)。

最近、旅で温泉に入る際にタオルを持っていくのですが体を拭くのに殆ど使わないんですよ。脱衣所に行く前に風呂内で十分に水気を切っておけば少し突っ立っているだけでも乾くし扇風機なんかがあれば余裕です。髪の毛は最低限風呂で湯を落としているからドライヤーがあれば乾かしたついでに体にも送風したら体も乾きます。函館の谷地頭温泉のように、たまにドライヤーが有料だったりすると夜風で頭を掻き回しながら乾かしたりします。何湯も入る時はタオル 1 枚だと濡れが蓄積するし、そもそも濡れたものを持ちたくないです。当たり前だけど脱衣場を濡らすなんてことはしていませんし、タオルを使わないからこそ人より周りに気を遣っています。

今後の行程を確認するために携帯を開き休憩所の長椅子に座り込みます。地図を開き次の目的地を確認してよいよ出発しますが、なんと椅子に今まで触っていた携帯を置いて出て行こうとしました。すぐに周りの人に教えてもらいましたが、普段こんなこと絶対にやらないのに……。まあただの眠気によるものなのでしょうが。

温泉の近くに第七只見川橋梁がありますがスルー。今日は全てを拾うつもりはありません、とは言ってみただけれど実際は昨日の行程ほどは調べておらず存在を知らなかっただけ。

9:38 出発

12 会津大塩～13 会津横川～14 会津越川～15 本名～16 会津川口

只見線の橋梁と豪雨被害について

2011 年の豪雨による只見線の被災状況は下記リンク先の PDF に書いています。先ほど通った第八橋梁は橋脚洗掘、第七、第六、第五橋梁は桁が流出してしまうという大きな被害を受けましたし、盛土崩壊や軌道変状などを入れるとキリがなかったでしょう。

https://www.jreast.co.jp/railway/pdf/20130522_tadami.pdf

2010 年のデータ(上記 PDF より)ですがランキングにしてみると只見線の経営の厳しさが伝わってきますね……。最下位の岩泉線は 2014 年に廃止されていますし米坂線は災害で不通が続いています(この前 JR 側が復旧させると言って驚きました)。誰が只見線にお金を出しているのかなどこの辺の経緯を調べてみると面白いかも。

| | | |
|-----|------------|------------|
| 1位 | 山手線 | 1,060,497 |
| 2位 | 埼京線 | 700,801 |
| 3位 | 東海道本線 | 335,552 |
| 4位 | 横浜線 | 221,110 |
| 5位 | 総武本線 | 201,534 |
| S | | |
| 63位 | 米坂線 | 424 |
| 64位 | 北上線 | 387 |
| 65位 | 山田線 | 377 |
| 66位 | 只見線 | 370 |
| 67位 | 岩泉線 | 29 |

9:50 痛い 痛い 痛い



10:01 温泉に到着 あれは廃橋



10:08 湯倉温泉共同浴場



次の温泉までは 9km。先ほどの大塩温泉で膝の痛みをごまかし、走り始めた時には激しい痛みが現れなかったのですが暫く走るとまた発症。自分はどこまで行けるのだろうと不安に思いながら 15 本名駅付近の湯倉温泉共同浴場に到着しました。共同浴場の隣にある旅館鶴亀荘へ知人が最近泊まって炭酸泉を絶賛していたので、ここはかなり期待していました。湯屋から川へ流れる温泉が斜面を黄土色に染め上げており成分も豊富そうです！

(注)この日中、足の痛みが頭の中を占めているので下調べはあまり行っていませんし、感情も「痛い」が先に来て純粹でないものになっています。

10:15 内湯が1つのみ



10:39 浴室からの眺め 紅葉+只見川+温泉



4点。

旅行客と思われる先客が2人いて、1人は私が入って間もなく去りもう1人の方と少しお話をしました。いつもより記憶の質が悪く細部は覚えていませんが、自転車で来たとか新潟から奥只見を通して来たというのには驚かれていました。この後行こうと思っていた温泉について伺いましたが情報は得られず。さて、温泉についてです。入浴料は300円で標準的、内湯が1つのみで浴槽は小さいですが人が少なくてのんびりできました(一人になって貸し切りでした)。シンプルな造りでシャンプーなどは置いておらず雰囲気をする私的にはその方が高評価です。湯は平均よりは高めで泉温は分かりませんがとにかく熱め、まあ飯坂温泉ほどではありません。湯もみをするか浴槽の隅から注がれる58.6°Cの源泉の注ぎ口を塞ぐことで熱い湯の供給を断って湯を冷ましませう。湯が熱いということは炭酸を感じるが大塩温泉よりできず……。良かったのは浴室からの眺めで、窓を開けて椅子に座りボーっとして冷えてきたら湯に浸かってを繰り返して中々良い時間を過ごしました。油断しているとあっという間に時間がなくなるので休憩所では長居せず再出発(10:54)。

という成分表すら撮ってないって……。湯も口に含んでいないし痛みと眠気で頭が一杯だったのね。

僅かな坂も避けられるのなら避けたかったので旧橋を渡り、気になっていたR252の廃道へ。スノーシェットの廃道は初めての体験で楽しかった。

10:59 左の橋の旧橋



11:01 R252 スノーシェットの廃道



本名ダム堤体より、第六只見川橋梁



第五只見川橋梁



(いきなりダムの堤体に出てびっくりしたよ……。)

本名駅の隣は只見線の中でも大きい方の駅である会津川口駅です。ここで昼飯にするかということで、食べログを見る。定食屋「おふくろ」かラーメン「不二家食堂」で迷ったけれど前者は有名店らしくツーリングマップルにも載っているそうなので、おふくろへ入ることにしました。店の前にチャリを停めて入店するとお昼時ということもあってそこそこ混んでいる。幸い席が空いていたので腰を下ろして休憩。店内には著名な人の色紙がたくさん飾ってあり、メニューを見るに看板メニューがあるらしくそれを注文。



注文したのは名物のカツカレーミックスラーメン 1,100 円。この料理、なんとカツ on カレー on 醤油ラーメン on ライスという食欲という食欲を詰め込んだ一品です。「初めてですか？」と女将さんに聞かれ食べ方を説明されたのを書くと、まずはカツを1口そして混ぜずに食べる(勝手に混ぜるから?)らしい。それでは実食。カレーが辛めか……?

うーん、微妙だな。もちろん不味くはないのですが、本来混ぜられないカレーとラーメンを混ぜたことでそれぞれの主張が中途半端になっているように感じました。発想としては(ネタとしては)面白いけれどこの値段だったらバラで食べた方が量も味も満足できるかなと思います。リピートはなし、それより他のメニューが気になります。



やはり有名店らしく私が食べている間に次々と客がやってきて店の外で待つ人も出てきました。ちょうど良い時間に來れたみたい。

11:46 退店

天気も含めて今の所微妙な一日だなー。

取り敢えず駅が近いので向かおうか。

16 会津川口～17 会津中川～18 会津水沼～19 早戸～20 会津宮下

只見から数駅来ましたが国道沿いに駅がなく微妙に奥に入らないといけないものしかなかったので駅前にくるのは只見駅以来です。さて、この日に入ることにした温泉は全部で3つであり既に大塩温泉と湯倉温泉に入りどちらも微妙だったので残す最後の温泉はどうか素晴らしい体験であってくれと願います。その温泉は会津の中でも辺鄙な場所にあつて車か自転車でないと行きづらく、更に私がターゲットにしている旅館はやっているかすらよく分からず、電話で確認をするのが推奨されていました。ただ、まだ温泉まで距離があつて会津川口時点で電話をかけても足の都合もあつて何時に着くか読めないということで先送りにします。次のチェックポイントと捉えていた会津宮下までは17km少々。

11:54 会津川口駅付近の線路



12:21 早戸駅と霧幻峡



会津川口からも只見川に沿った道が続く平坦もしくは下り基調かと思えばプチ峠もある上っては下る道が続く、足が痛めつけられます。意外と上っている時は痛まなかったのですが(場合による)ちょっと休んで再出発したら痛みだす扱いが難しい足です。「なんで上るんだよ！もっと上手く道作れや」なんて文句を垂れながら走りました。加えて薄暗いスノーシェッドも連発して怖いし。第四只見川橋梁は写真すら撮らずチラリと見てスルー。

早戸駅周辺には霧幻峡という観光スポットがあります。かつて国道から只見川を挟んだ対岸に存在した集落では生活の一部として手漕ぎの渡し船が利用されており、廃集落になった現在渡し船が復活して観光資源となっています。今朝には田子倉湖や只見の町に霧がかかっているのを見ましたが、これは川霧と言って名前の通り川やその周辺に発生する霧のことです。只見川は夏になると川霧が発生することで知られており、雪解け水の流れ込むことによる空気と水の温度差から川霧が発生しやすく、特に6月から8月の朝晩や雨の日に見られることが多いとのこと。当然11月のお昼の霧幻峡には何も出ておらず、夏の時期に訪れるのが良さそう。もしかして今朝始発只見線で霧が見られたのはラッキーだった？
(<https://okuaizu-suiryokukan.jp/wp/?p=2365>)

霧幻峡を少し覗いていこうかと思ったのですが坂を下る必要があつたので写真も撮らずにスルー。それよりトンネル脇の廃道を覗いていました。チャリを停めて入ろうと思ったけれど足が濡れる可能性があつたのでこれまたスルー。

金山町から三島町へ。

12:45 宮下発電所(宮下ダム)



可愛らしい絵に考え直しわざわざ上り返して撮影



猿

タヌキ



会津宮下直前のプチ峠はどういうわけか下りの方がより膝が痛みました。

先述の通り私は駅メモを遊んでおり只見から1駅ずつ取得してきたのですが無料枠の12駅を使い果たしてしまったので長野からの帰りに取りに行った1日駅取り放題になるアイテムを使用しました。残りの駅はそんなに多くないのでこのアイテムを使うのは勿体なさすぎるけれども(だってレーダーもルートビューンもほぼ0でデイリーのガチャを回しても当たらなかったもん)。



12:55 宮下アーチ3兄弟到着

Google Maps で大分前に見つけたやつ。観光地化されており結構人が集まっていました。橋で群れているバイクが立ち退いて写真撮影。そうこうしていたらクソうるさいバイクがこっちに来るし本当迷惑。見たいものは見れたと立ち去ろうとして案内を見るともうすぐ列車が通過するらしい! 10m ぐらいですが踵を返して今度はカメラを出します。

13:01 只見線会津若松行



只見線沿線を旅するなら自分がどの位置で只見線の列車と出会うのかは考えておくべきです。第N只見川橋梁(Nは1から8)を始めとして列車が映えるポイントは多いですからね。今回私は只見線のダイヤすら調べておらず、普通の第N橋梁ではなく宮下アーチ3兄弟で列車通過を見られたのはただの偶然です。足は痛くてやる気がなくても運は良いんですよね。宮下アーチ3兄弟について簡単に解説すると以下の通り。

長男：只見線大谷川橋梁、昭和14年供用開始、真ん中

次男：県道小栗山宮下線宮下橋、昭和32年供用開始、手前

三男：国道252号新宮下橋、平成元年供用、奥

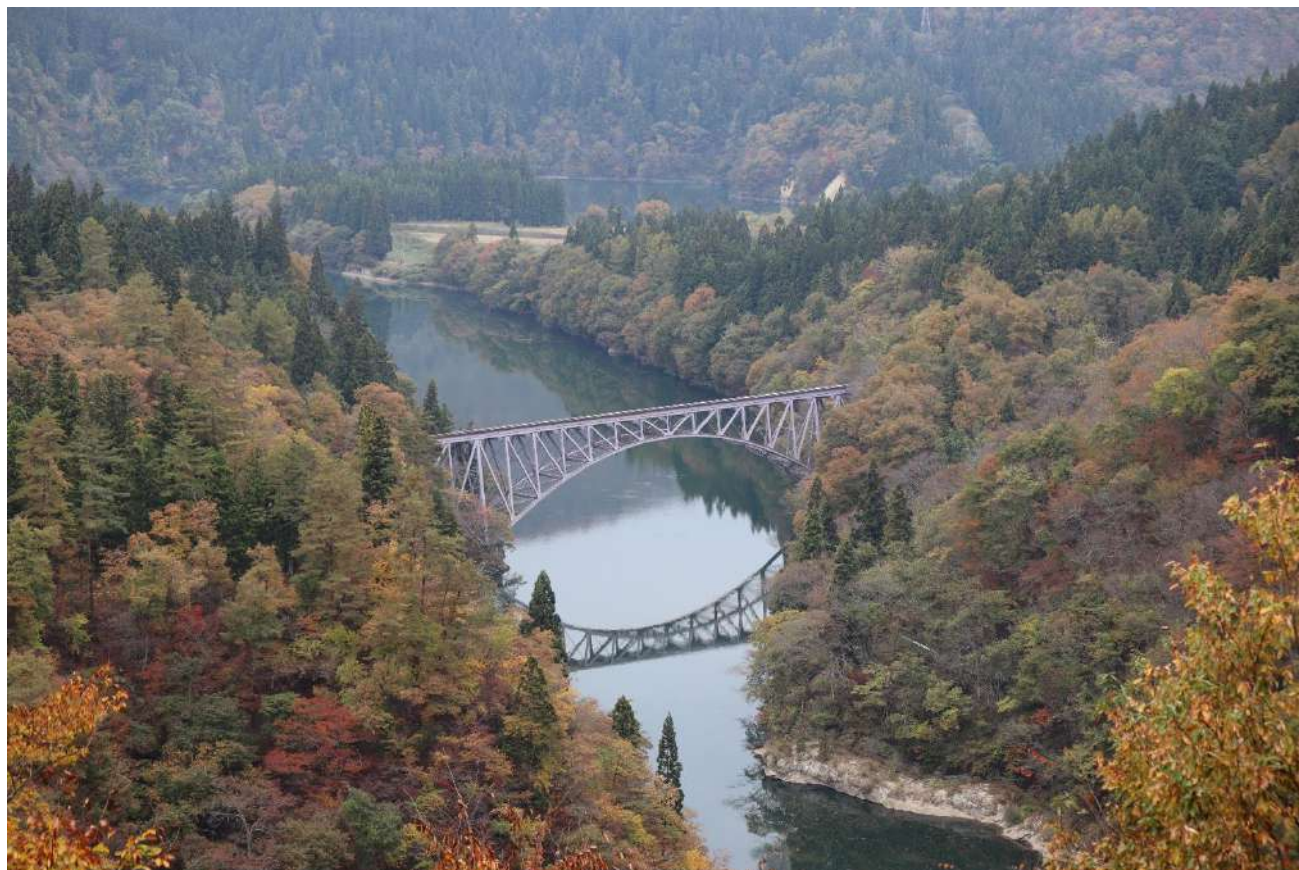
それぞれ1939年、1957年、1989年供用開始ですから2023年で84歳、66歳、34歳とかなりの年の差ですが……。長男次男三男の年の差ではありませんね。

20 会津宮下～21 会津西方～22 会津松原

目指す温泉は会津松原駅の辺りで国道から逸れるのでまずは分岐地点まで5kmぐらい。その前に温泉への到着時刻が残り距離の減少により読めるようになったので行きたい旅館に電話をかけますが(13:00)、通話中になっていたので時間を置いてかけることにしました。旅館のおばあちゃんは畑にいて出かけていることもあるそうなのですが、通話中ということは外には出ていないということかな。時間を置いてかけ直そう。道中の道の駅尾瀬街道みしま宿で一息つくついでに再度電話(13:11)。しかし、またもや通話中の表示が出ます。もう知らね。とりあえず行ってみるけどどうにでもなれ。

道の駅のすぐそばから第一只見川橋梁を見られるらしいので展望台まで痛む足を引きずります。

13:25 紅葉の第一只見川橋梁



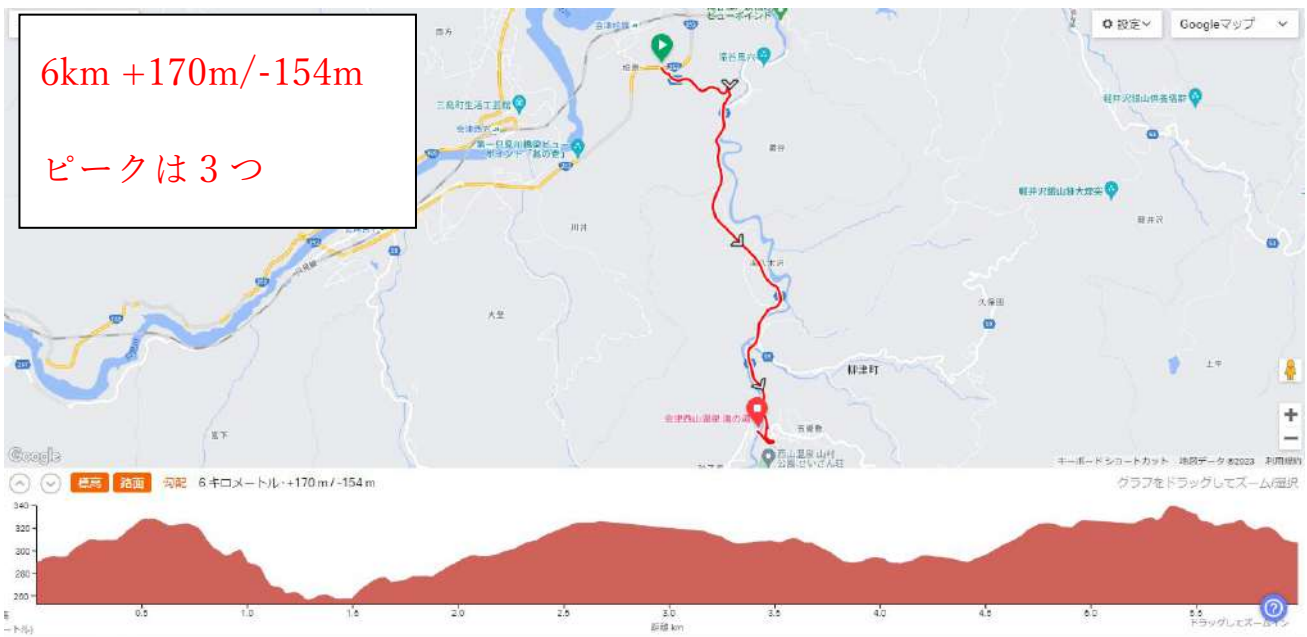
只見線で最も有名な景色でポスターなんかにも使われている第一只見川橋梁。展望台は2つあってビューポイント「其の壱」と「其の弐」があり、其の壱は国道から階段を少し上れば着き其の弐はもう少し上にあります。この左膝では階段昇降が辛くて一段に両足を置かないと歩けなかった……。



この橋梁、只見川の水面へ反射して周りの木々も秋を感じさせ良い景色なのは間違いありませんが感情を揺さぶられるほどのものではありませんでした(まあ 99%以上がそのようなものであり、残りの1%未満を探すのが、私が旅に出る理由です)。ビューポイントから人間の目で見える橋と SNS にアップされている橋の画像の違いに、まあこんなものかと冷めてしまいました。あるあるだけど、これだけ望遠していたんだなあ。望遠レンズを持っておきながら最近それを使うことに納得できなくなってきた。

ここから、僅か6kmなのに奥只見旅でいちばん辛かった。

この辛さを記録として文章で残しておきたい。万全な体ならこんな区間屁でもないんだけどね。



13:34 R252 から一旦離れて K366 へ



目的としていた最後の温泉は「西山温泉」です。会津松原で国道252号からは一時的に逸れて、只見川から離れる方向に山の方へ県道366号、県道32号、県道59号と「6.0km」の上り基調でした。膝痛かったよ、でもあと6.0km行けば温泉で休めるし帰りは下り基調だから雨降っても何とかできるでしょ。

- ・まず1つ、ずっと上り基調だと思っていたんですよ。
- ・辛かったのでしょう、道中の写真は1枚もありません。

もう一度言うけれど普段ならこの程度難なく走れますし、皆さんがもし行かれるとしてもこの道に苦勞することはないでしょう。

(注)下調べをしていませんでしたし走っている時には何メートルアップかも斜度も、距離以外何も知りませんでした。

走り始めると道路は鬱蒼とした木々の中へ入り典型的な山中の峠道になりました。最初勾配は緩く走り始めボーナスもありすんなり行きましたが、走り始めて400mで勾配がきつくなり膝が痛んだので停止。8.7%の勾配が126mに渡って続く12mUPの区間が始まります(笑)。膝よ、痛まないでくれとケイデンスを下げて最も軽いギアに、何とか足つき1回で上りきると今度は下りが始まります。この下りがいつまで立っても終わらず、38m上ったのに70mも下ってしまいます。おかしいでしょ、温泉は川の上流だから標高は上がるはずなのに。下りきった残り4.5km地点でシェッドがあり、1.1km67mUPの平均約5%の上り坂が始まります。これはよくある平均詐欺で下りもあるし8%とかは普通に混じっているはず。ここもまた足つき1、2回で上り切りましたがずっと上りだと思っていたのに70m下って70m上るっていったい何なの？アホなの？まあそんなことを言っても仕方がないのですが、行き場のないイライラを頭の中で呟いて消化します。残り3.3kmとなり下り1.5%程度のスノーシェルター(トンネルだと思っていた)を抜けると次の700mで平坦区間も含みながら30m下ります。なんでまた下るの？なあ！平坦区間で更に1回足つき。この時点で3kmほどしか来ていないのですが肉体的精神的に追い込まれ随分遠くに来たように感じられ、「西山温泉は凄いな。これは秘境だな。」なんて思いました。残り1.6km地点から360m区間は8%ほどで30mぐらい上り、常に痛んでいますけどゆっくりでも確実に進みます。西山スノーシェッドに差し掛かるとゴールが近いことを察しますが、シェッドを抜けてから今度は左折、いい加減にしろ！遠すぎるんだよ！！！！残り800mで左折してからは250m上るとあとは下りなのですが……。左折後また上りが始まったことでもう感情が爆発しました。

「二度と来るか。」

だから今日で温泉を満喫して、もう二度と来ない。帰りまた上らねばならないという絶望感がありますが、痛い痛い痛い痛いと言きながら何とか到着。

13:58 右へ行けば西山温泉郷



13:59 え、良い……！



27分で6km、グロス13.3ぐらいでした。やはり体感のみならず経過時間もそこそこありました。

西山温泉郷



西山温泉で検索するとトップに山梨県の西山温泉が出てくるかと思えます。山梨の西山温泉は西暦 705 年からの歴史を持つ世界最古の宿としてギネスブックに載っている慶雲館で有名です。そのため福島の西山温泉はしばしば会津西山温泉と呼ばれます。以後、西山温泉は会津西山温泉のことを指します。西山温泉では 8 つの源泉が湧いており最初の神の湯が発見されたのは山梨の方と同じ時代の 717 年と云われています。2023 年 11 月 4 日、温泉郷到着時に入浴ができる「可能性があった」のは以下。

1. 下の湯
2. 滝の湯
3. 中の湯
4. 老沢温泉旅館
5. 新湯
6. せいざん荘

そして私が目的としていたのは 1 番の下の湯です。ここは早くに入らないと本当にヤバイ(無くなる)と思ったからです。



下の湯は最も見つけ辛い場所に位置しており、滝の湯裏に 1 車線の道があり車でも入れるのですが Google Maps にも Apple Maps にも地理院地図にも記載されていないので注意されたし。Apple Maps では下の湯が川を挟んでポツンと孤立していて面白い。滝の湯の裏を回り込むように狭い道を進むと吊り橋が見え、これを渡った先にひっそりと佇むのが下の湯です。

14:03 ここまで辛かったから達成感があります



14:05 吊り橋を渡らなければいけない温泉



ここまで辿り着いたのは良いのですが電話を 2 回かけても出て頂けなかったのもそもそも下の湯に入れるかは分かりません。ダメなら他の湯を端から当たろう。

私が着いて自転車を止めると吊り橋を渡った先に男女 1 組が歩いていくのが見えました。これは先に行かれるか、全然待つのは良いけれど、と思いながら吊り橋を渡って急ぎ追いかけます。渡った先には一軒の(部分的に)木造家屋があり、先行していた男女らは建物の玄関を開けて何やら話しているみたいです。旅館のおばあちゃん、下の湯に入ろうと車で来たご夫婦、そして後ろから私が集まりました。

奥さん「入浴ですか？」

私「ええ、そうです。」

ご夫婦が建物から出てきて 2 人の話を聞くに、今は他のお客さんが入っておりおばあちゃんが他の客との混浴を認めて下さらない、そして湯が溜まり切っておらず少なく湯温も低いとのことだそう。後者の湯量は全く気にしませんがね。3 人で道を引き返す途中浴室の窓を旦那さんが外から開けて既に入っているお客さんに湯加減を聞くと、「良いですよ」とのこと。(3 人で結構話したから記憶から落ちているものが多いです。) 3 人で吊り橋を渡り返して自転車と車の置いてあるところへ戻り、これまでの旅を共有します。先に下の湯に着いたのは彼らなのだから、私が自転車で来て苦労しているのだからと優しさにつけこむわけではありませんが順番を譲るように誘導することは絶対にしたくありませんでした。でも、本当に辛かった、上ったと思ったら下るし、などと辛かった体験を伝えました(珍しく本当に辛かったので)。お 2 人は車で温泉を巡っている途中らしく、話を聞いていると分かったのが「この人達めっちゃ温泉に詳しい！」ということ。私など比較にもならず今まで会った中ではいちばん詳しい方たちでした。

「どこから来たの？」

「東京、上野らへんです。」

「なら藝大か！」

「いえ、東大です。」

私と同じ年で社会人 1 年目の娘さんがいるそうで話が盛り上がりました。文系で理系の多い職場に入っ
てしんどいそう。会ったことはないけれど頑張れ！

お 2 人は大宮から来られており旦那さんは硫化水素など強烈な温泉好き、奥さんは鄙びた温泉や旅館好き。「あー！申し訳ない僕はこっち側ですね！」と奥さんの方へ 1 歩。

「僕も今日2つ入って来たんですよ～」

「えーと、会津大塩の大塩温泉、なんだっけ？ああ湯倉温泉。でも湯音が高くて炭酸が微妙だったんですよ。ぬる湯好きなんですけど。」

知識量の差がありましたが温泉トークで盛り上がっていくつかおすすめて教えて貰いました。と言っても熱量が凄くて半分も拾いきれませんでした。やはり連絡先を交換すべきだったなあ。

- ・玉梨温泉共同浴場
- ・八町温泉共同浴場亀の湯

外観はトイレみたいらしい。これは湯倉温泉もそうでした。

- ・木賊温泉
- ・湯の花温泉の4湯

この2つは5月に行きました！記事でもこの後Ex2にて写真を貼ろうと思っています。

「〇〇湯がいちばん熱かった。」

「いや、日によって違うんですよ。」(私)

湯の花繋がりでは木賊温泉の奥に埼玉県の作った自然の家という施設があるそうで奥さんは昔々に学校か何かの行事で行ったことがあったそう。

あと草津に行く途中の吾妻線沿いにボロ屋の温泉があるらしい。これは今地図を見てもどれのことか分からないなー。

そんな感じで立ち話をして盛り上がっていると先に入っていた男性客が湯から上がり吊り橋を渡ってきます。彼は地元の常連のように見えたが予想に反して来るのは初めてだそう。電話も出てくれたみたいです。

只見線終電までは余裕があるし1時間ぐらい待つことに抵抗はなかったのですが……。

「絶対入るべきだよ。」

体も心も疲弊していましたが何気ないこの言葉は頭の中に強く残りました。

立ち話で大体どういう人なのかは分かったので、冗談3割真面目7割私を子供ということにして3人で混浴したら皆が入れるじゃないかと提案しましたが、「入ってきな」と言っていただきました。

ありがとう。伝わらないだろうけれど、改めてこの場でお礼を申し上げます。

3人を残して貴重品だけ持って再び吊り橋を渡り下の湯へ。ガラガラと引き戸を開けてすみませんと呼びかけますが目の前にいるおばあちゃんに声が届いていないみたい。角度を変えて再度、すみません。

「ああ、さっきの。」

他のお客さんの予約状況がよく分からなかったのですがなぜか入っても良いことになりました。14時半頃のことで、15時ぐらい目途で出れば良いかな？ギシギシと床を鳴らしながら建物の奥へ。



西山温泉下の湯旅館
2023/11/4 14:46

6点。

一組ずつの貸し切り利用であり、浴槽は2つ。左の浴槽に源泉が直接注がれており湯温は高め(湯倉温泉と同じぐらい)、右の浴槽には注がれておらず熱くも冷たくも感じないぬる湯が楽しめます。湯が少ないとは聞いていたけれど先ほどのお客さんが入っていた時間よりも増えているので何も問題はありません。かなり熱い源泉を手に掬って飲むと硫黄の風味を伴う卵スープのような感じ。実際、下の湯の泉質は含硫黄—ナトリウム—塩化物泉であり味の通りでした。分析書によると源泉は昭和57年で66.0°C、平成5年には69.6°Cと記載されていましたが、確かに熱いものの手で触れるあたり源泉温度が下がっているのは確かなようです。これだと屈斜路湖の野湯の方が全然熱かったな。浴槽の底には消しカスのような白い湯の花(温泉の不溶成分が析出、沈殿したもの)が散らばっており湯に浸かると巻き上げられ見ているだけで楽しいです。この湯が左膝を始め全身に染み、「ああ……」と気持ちよさのため息をつきます。しばらく熱い湯に浸かってぬる湯で体を休めてというのを繰り返して楽しみました。浴室の雰囲気は木の浴槽に石畳、天井には煙突のように四角く穴が開いており近代的な換気設備は着いていなくてGood、石の壁は年季を感じさせ、平成生まれの私が想像する昭和の銭湯そのものでした。

それにしても只見駅を出てすぐに痛んだ膝を大塩温泉で騙し、また痛んで湯倉温泉で騙し、また痛んで西山温泉の道中は肉体精神共に辛かったです。来てよかったです。まだ西山温泉で膝を騙して走り続けることができそうです。

升に溜まる湯の花



十分満足して文句はないのですが、2点残念な点がありました。10年前の記事を読むと浴槽に溜まる湯の花の量が半端ではなくかき混ぜると湯が真っ白に濁るほどだったそう。これは文句を言っても仕方ないですがね。もう1点は「記録者」としての本能が出てしまったこと。本来なら浴室にスマホなど持ち込みたくないのですが、この旅館に次来ることができない可能性が高いと思ったから写真撮影に勤しんでしまい湯と真に向き合えたのかよく分からなくなってしまったのです。終いには、スマホを壁に立てかけて記録として自分の

入浴動画なんて撮ってしまいましたし(こんなこと初めてしました)。

ところで「次来ることができない」と書きましたが、これすなわち積極的に来る気がないということだと思います。本当にその場所を気に入ったのならいくら距離が遠かったとしてももう一度行くでしょう。

2022年9月11日、満月の夜に北海道根室市落石で得た気付きです。



15:09 浴室→玄関の通路

今度はせっかく使おうと思っていたのにタオルを自転車のリアバッグに忘れるという失敗をして、ドライヤーも扇風機もないため入念に水気を切って玄関へ戻ります。サポーターは面倒なので履かない。

「ありがとうございました！」そのまま出ようと思ったら「400円ね」と言われ驚きましたが、普通先払いだから失念していました。少し話してから下の湯を去りました。

電話に出て頂けなかったのは離れて違う場所にいたからだそう。今度来るならその日の早いうちからかけることにしよう。昔は旅館営業もやっていたそうですが現在立ち寄り湯のみ、ただ跡継ぎがいないようで立ち寄り湯もどうなることやら。雷電温泉郷と同じ道を辿らないようにと願うのみです。

外へ出て振り返ると3色に色づいた葉が生活感のある旧旅館を彩っていました。

西山温泉下の湯 2023/11/4 15:16 くもり



おばあちゃんが畑に出ていて電話に出られないこともあると書きましたが、畑は建物のすぐ隣にありました。吊り橋を渡るとそこにご夫婦の車はありませんでした。

15:19 吊り橋に木の板？



吊り橋の柱に木の札がかけられており掠れた文字を読むと、なんと「休みです」と書かれていました。そう言えば先ほどのご夫婦が言っていたな。電話の応答がなかったので木の札に気付いており、かつご夫婦がいなかったら引き返してしまっていたかもな。

せっかく来たのだから他の湯も覗いて行こうか。仮に帰り雨に打たれるとしても温泉に入る方が大事です。下の湯のおばあちゃん曰く滝の湯に行くの良いらしく、老沢温泉は工事をしていて入れないそう。まずは下の湯に行く道中にあった秘湯を守る会のちょうちんが垂れ下がる滝の湯に行きますが今立ち寄り湯はやっていないとの掲示があって退散。今思えばもう少し踏み込んでも良かったかも。続いて中の湯に自転車を押していくと旅館から出てくる宿泊客とすれ違うところでした。そしてもう一人、猫車を押すおじさんは旅館の人で、立ち寄り湯ができるか伺ったところ宿泊客がいるからダメだそう。他の温泉について教えて貰い、老沢温泉は子供？親戚？が多くて部屋がないからダメとか言っており謎。新湯とせいざん荘のことも教えて貰いましたが名前判断して新しい(実際に新しいとは言っていない)温泉にはこの時惹かれなかった、というよりむしろ行く気力がなかったのでパス。

15:22 滝の湯



15:26 中の湯



1. 下の湯：入浴済み
2. 滝の湯：現在立ち寄り湯不可の掲示を確認
3. 中の湯：宿泊客のため立ち寄り湯不可
4. 老沢温泉旅館：大宮夫婦「お化けみたいなおばあさんが出てきて、今はやっていないそう。」
中の湯の方「子供？親戚？が多くて部屋がない。」
下の湯のおばあちゃん「今工事をやっていて入れない。」
5. 新湯：調べると 2023 年 9 月時点で立ち寄り湯不可？
6. せいざん荘：入浴可

悪い意味ではないけれど、もうむちゃくちゃやな(笑)

老沢温泉は気になっているんだけどな～。



15:33 坂を上り返し、最後に西山温泉郷を俯瞰

たった 6km だけど随分遠くまでやって来たような気がします。
行きには本気で二度と来るかと思いましたが、機会があればまた来たいと思います。

15:51 国道 252 号に復帰

温泉で膝を騙した直後なので帰りは 20 分ほどで走れました。

22 会津松原～23 滝谷～24 郷戸～25 会津柳津

只見線沿線に復帰しましたが会津松原から会津柳津まで国道を走ると只見線は殆ど見えず、もちろん駅も見えません。只見線で帰るなら終電の会津松原駅 19 時 43 分発がありますが、足が痛むとしても流石に会津若松まで走りたいと思います。ただ会津若松駅まで只見線沿線を行くと 40km 以上あって嫌になるので 2 つ 3 つ先の駅までの距離を調べてその距離を消化したら再び距離を調べるという手法で精神を保ちました。駅メモをやっていたら圏外の区間があって貴重なアイテムを使わされるし散々だよ。

16:15 道の駅会津柳津



16:18 謎のラッキーと赤いやつ



そういえば炭酸水の金山町から霧幻峡の辺りで三島町に入り、会津松原を過ぎたところで柳津町に突入しています。休憩で寄ったのが道の駅会津柳津で、17 時を回っていなかったのが建物の中に入り何があるのかな、何を食べようかなと視線を巡らせます。結局ソフトクリームを食べて甘いジュースを飲むか葛藤しましたが何もせず退店し、自販機でオロナミン C を飲みながら Slack の返信をするのみでした。道の駅前には公園がありなぜかポケモンのラッキー(ポケモン GO では強かった)と赤べこのオブジェが置いてあり子供たちが遊んでいました。赤べこは会津若松市の郷土玩具らしく西山温泉を始めとして色々なところでそのイラストを見ました。

25 会津柳津～26 会津坂本～27 塔寺～28 会津坂下～29 若宮～30 新鶴

16:42 塔寺駅付近



会津坂下までの道については特に言うことはありません。時間と残り距離的にナイトランになりそうで、暗くなるまでにどれだけ距離を削れるかという昨日(旅が濃すぎて昨日だというのに驚いている)の檜枝岐一只見と同じことをやっています。小出駅で寝ている時にフロントライトの充電をしなかったのを悔いでいました。一度もバッテリーの充電をしていないけれど電気は十分にあったのに。

「ナイトランは嫌だ！」



峡谷区間を抜けて会津平野に出てきましたが只見線は真っすぐ会津若松へ向かってくれず、一旦南へ行き東へ、最後に北の会津若松に向かうというルートを取っています。駅メモでは現在地点から最も直線距離の小さい駅にチェックインする仕組みなので真っすぐ国道49号を行くとかなりの駅が取れないのです。しかし愚直に線路沿いを行くといつライトが切れるか分からないナイトランを強いられるし、左膝が暴れ出す可能性もあったので中間の案として左の走行ログのように新鶴駅までは走りそこからは最短で会津若松に向かい残りの駅にはアイテムを使うことにしました。

30 新鶴～31 根岸～32 会津高田～33 会津本郷～34 西若松～35 七日町～36 会津若松

17:09 いや補正しすぎ、実際はもっと暗いです



17:25 国道 252 号に復帰



新鶴駅に着きましたがここから最短で行っても会津若松まで 10km あるということに結構メンタルを折られていました。新鶴駅で曲がり入った道には会津パールラインの愛称があるようですが路面があまり良くなく街灯がほぼないので道への文句を垂れ流しながら痛む足を回します。遂に国道 252 号に復帰して残りは 5km、いつも通りパンクしないでくれと願う時間が始まりました。旅の最後に空港や駅まで残り 3～4km ぐらいになったら最悪徒歩で行けるなといつも安心感が湧いてきます。残り 2km 地点で更なるショートカットのため入った住宅街の道が段差マシマシで酷いこと。選挙カーうるさいよ、西山温泉でも佐藤さんの選挙カーがいたけどここでも佐藤さん、別人？



17:46 会津若松駅到着

ただただ膝が痛かった。普段はコスパが悪いので買わないポンジュースの小さなペットボトルを買ってみた。とても染みる。

丁度良い時間の磐越西線郡山行きがあったのでコンビニ前で輪行を済ませ、何か食べたかったので再びコンビニに入りホームへ。

(磐越西線)会津若松 18:19—郡山 19:34

18:14 磐越西線ホームにて



郡山までは所要時間 75 分、乗車が遅かったので辛うじて空いていた車椅子スペースに自転車を置いて立ち乗車です。まあ近くの 2 人席の片方が空いていましたが自転車服の人が 1 時間以上隣にいるのは嫌でしょうから気を遣って立っていました(しんどかった)。東京までの電車を調べるとギリギリ普通列車で池袋まで出られるみたい。まあ翌日もやることがあったので郡山から新幹線輪行をすることに。

20:05 座席裏に入れられました



えきねっとで確認した上で、窓口では自転車を置きたいので車両最後部、進行方向左(ABC席)で席をお願いしますと伝えて無事に乗車できました。



| | | | |
|------|-----------|-------|------------|
| 距離 | 105.28 km | 獲得標高 | 1,508 m |
| 移動時間 | 5:26:50 | 平均パワー | 100 W |
| 平均速度 | 19.3 km/時 | カロリー | 2,197 kcal |

左がこの日の走行ログです。珍しく 24 時間全てが面白かった 1 日目と比べてしまうと膝の痛みや期待外れなものもあり見劣りしてしまいます。ですが、出会う全てが満足いくものであることは稀で、食事に入った店を「ああこの店は失敗したな」と笑って流すのもまた旅です。ただ、事前調査をすることでその日良いものに出会う確率は上げられると考えています。去年の轍記事で書きましたが、ネットで知れる程度の浅い所にある知識をほぼ全て調べて頭に入れた上で、つまり前提知識を持った上で地元の人と近い高さで話せるようにし、深い所に存在する知識を探するというのが去年時点での私の理想的な旅のスタンス。次のページで少し話すとしますか。

切符のキャンセル



そう言えば小出駅で駅寝したことで使わなかった切符「小出→長岡」と「長岡→小出」があるのでした。有効期間は本日 11/4 までで返金ができるので窓口の列に自転車を携えて並びます。しばらく並び、腕時計を見ると 11/5 となっており……、「あれ？期間過ぎてるから返金できないじゃん。」とぼやけた私の脳は判断して、少し違和感を持ちつつも列から抜けて家まで帰ってしまいました。

～22 時過ぎに帰宅～

旅に出たい

感動

そもそも私が旅をする目的は、正の感情であれ負の感情であれ「心に強く響くものに出会う」こと。だから記事という名の行動ログの中でも感情を大切にしているのです。少なくとも旅において自分は他人より感情の発火点、また感情の閾値が高いと考えており、その一因として何かをするために何十キロも歩いたり、自転車をこいだり、何かの前になかなか苦労することに慣れっこになってしまっているというのがあると思います。旅に限らず今まで23年生きてきて記憶の範囲で心が動いた景色ではなく「体験」を順位付けすると以下ようになります(何とは言わないけれど可哀そうな人とか言わないでね)。

1. 2021/8の下調べと2021/9/1~2021/9/8の旅が存在した前提での2021/9/9、北海道函館市某山
2. 2020~2021/8に抱き続けた憧れを前提とした2021/9/5、北海道岩内町樺杣内覆道
3. 2023/2/12 北海道旭川市3年ぶりの旭川冬まつりで見た花火
4. 2019/5/21~2022/7/7のゲーム体験を前提としたArcaeaのターミナルソング、2022/7/14「Last」
5. 2017~2019/2/26を前提とした2019/3/10大学の合格発表
6. とあるブログを読んだ上での2022/9/8十勝三股

その他. 2022/9/11 あやめヶ原、同夜 根室市落石カジカの宿、2023/1/22 Re Aoharu (4th PV)

2023/3/12 雄冬岬のバス停野宿、2023/3/6 夜中の糠平→十勝三股徒歩→雪原での昼寝

現地では4番目に入れた枝折峠の雲海と100kmウォークを完歩したことは残念ながら入れられるほどではありませんでした。旅の最中である1位の体験はずば抜けて感情を揺れ動かし景色を見ただけで心臓がドキドキしました。ただ、この1位の体験であっても前日までの長い旅と困難がなければ何も感じていなかったのではないかと思います。共通するのは感動には過程が必要であるということ。その点では2022年9月の北海道自転車旅は全体的にかなり良かったけれどその記事を書き出すと300ページでは済まないでしょう。

正の感情に限って話をすると、旅で感動するには何が必要なのでしょう。1つ確実に必要なものが私のこれまでの体験から言えます:「お腹が満たされていること」です。私の場合これは本場で、お腹が空いていると意識が空腹に向かい感動するための何かしらのリソースが減ります。実際上に挙げたランキングで空腹と眠気を感じていた時はありませんし、2位の雷電トンネル迂回において後半はお腹が空いており楽しむ余裕がありませんでした。すぐに思いつく感動するために必要なもの:予想外なもの、感動する前にある程度の期間苦労していることぐらいでしょうか。1位、3位とその他のあやめヶ原、カジカの宿のみ前者の予想外なものという要素が絡んでおり、後者の苦労あるいは時間経過は3位を除く全てに共通しています。3位の体験だけその場にポンと置かれて涙するような異色なものとなっています。

予想外は狙って引き起こすことはできないけれど確率は上げられるかもしれません。2022年9月の北海道旅行では沢山のひとと話すことを意識して12日の間で60人ほどと最低でも言葉を交わしました。上川のラーメン屋さんで麺を無料で増やしてもらい、その後会話が弾んで粗品として2階にあったタオルを貰ったりしたなあ。巷では人気のタウシュベツ川橋梁は夏、冬、冬の夜と見たけれど感情は平坦なままでした。もちろん良い空間なのは間違いないのですが。

写真

ごめんなさい、愚痴が始まります。

記事の大事な場所では景色という言葉を手易く使わないようにして空間や体験と書いています。例えば枝折峠の雲海は景色という平面的な写真をイメージさせるようなものではなく、少なくとも3次元の空間に存在しています。そして人間には視覚だけしかないのか？他の感覚器官もあるでしょと思うのです。枝折峠の3°Cという寒さ、昇って来た太陽により僅かに暖くなる体、シャッター音と歩行音以外はしんと静まり返る空間、そして視覚が合わさっているから体験という言葉を選んで使っています。私は体験重視だと言いましたが視覚だけで勝負する写真家やフォトグラファーとはスタンスが違うし、それをSNSで映えるように自分の願望通り写真をこねくり回すのは、理解はしても決してやろうとは思いません。明らかにおかしい彩度の写真などがよく流れてきますが、これって目で見えないでしょ？といつも思っています。ついでにこの場で常々写真に対して思うことをもう3つ書きます。まず1点、クロスフィルターを使う時点でその写真はアートなのだと思います(当たり前だけどアートを否定するわけじゃない、私がしないだけ)。あんな点光源にバツ印を入れるものなんて目に見えないものの極端な例でしょう。もう1点は星空写真について、「見えねえよ、そんな空は」。あなたは本当に綺麗な星空を知らないんだと言われるかもしれませんが実際その可能性は十分にあります。今まで見た中でずば抜けて綺麗だったのは2023年2月の全く雲がないある日、北海道上士幌町の糠平から数キロ北に車を走らせた完全無人地帯、そして凍結した糠平湖から見る氷点下18°Cの空でした。あれは自分の価値観が変わったけれど、例えば山などで見る星空もマックスこの程度でしょ？と思います。星は気温が低いほど綺麗に見えると聞きますが、仮に山に登ったとして氷点下18°Cで撮影する人がどれだけいるか。また脱線、糠平湖には2人で行ったけれど記憶に残すことを重視した私は敢えてカメラを持って行かないことを選択しました。結果として撮影しようとしていた連れてきてくださった方と違い糠平湖で仰向けになった私は流れ星を3つも見ることができました。最後は、写真は写真だけで存在しないで欲しいということ。ある意味では「写真にはメッセージがあって欲しい」、別の意味では「写真には記憶が結びついていることを忘れたくない」という解釈を自分の言葉でありながら私はします。まず前者の解釈について例を出しましょう。左の写真は役目を終えて打ち棄てられた道路が人知れず荒波に侵されて少しずつ壊されていく様を捉えたものです。こんな可哀そうな道路が存在することを伝えたかった、そして自然の猛威を伝えたかった。右は最盛期に1,500人が住んだものの今では2世帯が暮らすのみである地で撮った写真です。(続く)

2022/9/6 12:45



2022/9/8 12:25



ここには学校があった、鉄道の終着駅だった、こんなにも昔から比べて変わってしまったのだというただの事実を伝えなかった、虚飾の観光地より手つかずの自然が美しいことを伝えなかった。

記憶と記録

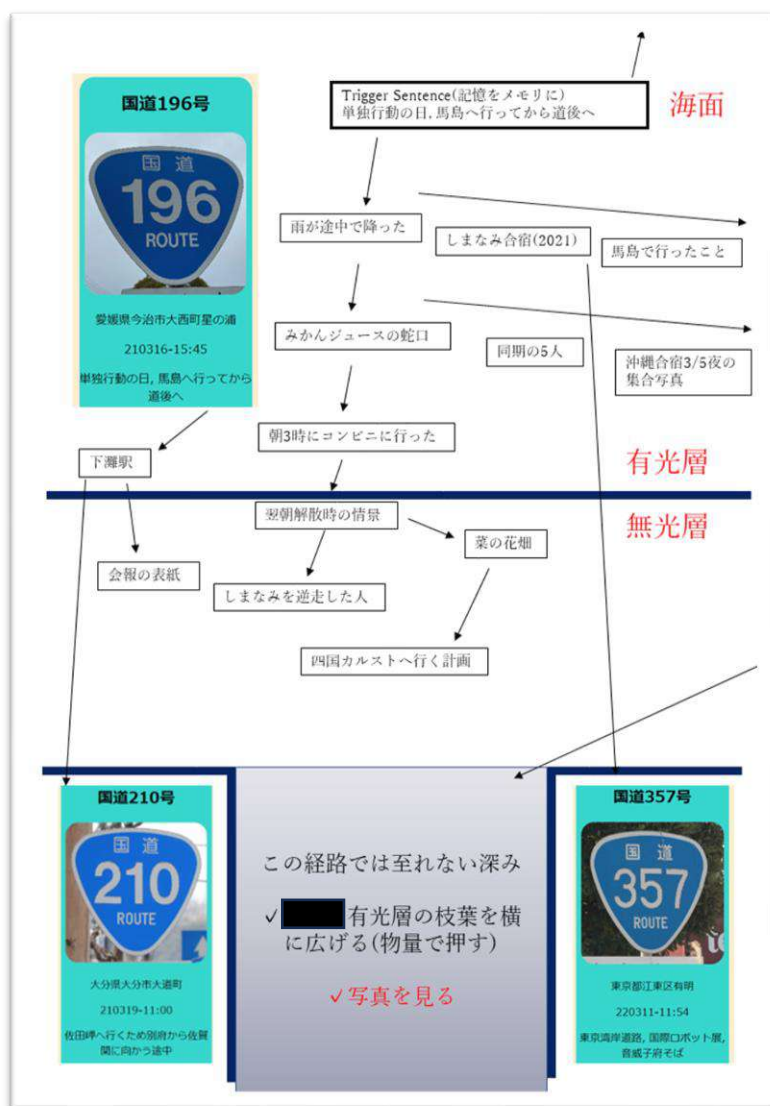
先ほどの話の続きで、前者についてはこのぐらいで説明は十分でしょう。それではメッセージがない場合に撮る写真を私はどう捉えているか。それは「記録」であり、なぜ写真を撮るのかという問いが絡んできます。北海道が好きで毎年行っているのですが、2021年9月の旅では5,000枚、2022年9月にも4,000枚、2023年2月～3月には9,000枚を、大部分は記録のため撮影しました。写真を撮ることで目の前に見えているものを記録する他、撮影時刻と位置情報を記録することをも目的としています。今時HDDなどもありますし静止画に限るなら個人が撮る量に容量的な制約はなく無限に撮れると思います。スマホで撮ったJPG写真が1枚3MBだとすると千枚撮れば3GB、百万枚撮っても3TBで個人でもギリギリ管理できる量でしょう。

記録することができるようになることもあります。以下は科学的根拠に基づく話ではなく私の想像の中の話です。私は人間の記憶というものに対して海底から海面そして空までを含めた「記憶=海」のイメージを持っています。例えば今日の晩御飯に自炊してカレーを作ったとして食べ終わった直後には晩御飯が何だったのかを覚えているでしょう。ここで今日の晩御飯という記憶が形成され、海面に漂っています。今日は眠って明日の晩には昨日の晩御飯に何を食べたのか覚えている人多いでしょうが思い出せない人もいます。果たして3日後に3日前の晩御飯を覚えているのでしょうか？私のイメージでは記憶という小さな箱が海の中で浮力より大きな重力に従って遍く沈むものだとすると、時間経過と共にカレーを食べたという記憶の箱は海の底へと沈んで行きます。1週間も経つと海面からは光が届かないところまで沈んでしまい、これが思い出せない=海面に引き上げられないという状態だと考えています。一記憶は単独で存在しているのではなく人間が睡眠をしている間に整理されているとは聞きますが、新たに海へ投下された記憶の箱が沈んで行く中、既に海中にある過去の記憶と結び付けられて記憶間にパスが形成され複雑なグラフ構造を取っていると想像しています。海の底へと記憶は沈んで行きますがある所で沈下が止まるでしょう。何気ない晩御飯の記憶はかなり深いところまで沈みますが、北海道で旅行したとして最後にジンギスカンを食べたのだとしたらその記憶は1年ぐらい経っても覚えているはずで、海面から取り出しやすい比較的浅い位置に漂っているでしょう。記憶の海には数々の一記憶がそれぞれ異なった深さを漂い、お互いは決して独立せず紐のようなもので複雑に接続されているのです。ある記憶を思い出すと同時に別の記憶が思い出されることがありますが、紐で繋がっていたためだと考えれば分かりやすいでしょう。辛いものであれ楽しいものであれ決して忘れないような記憶は逆に空を星となって漂っているというイメージを持っています。さて、本題の写真により記録することの意味です。容易に想像することができるのは、記憶がどのような位置に沈んでいたとしてもその記憶を写真として残しているのなら即座に思い出す=海面へ持ってくるができることで手を離すとまたある位置、前より少し浅い位置へと沈んで行きます。また、先述の通り記憶は紐で繋がっている別の記憶をも呼び起こすことができます。記憶と記憶を繋ぐ紐の太さにも違いがあり、関連の強い記憶からそうでないものまであります。私は他人より記憶容量、記憶を書き込む速度、記憶を取り出せる速度と深さ、特殊能力に優れていると自覚しています。特殊能力について例を話すと、友人たちと旅行に行った時〇〇駅に居たのが12時

40 分頃だと何も考えずとも話題になると頭の中に浮かんでくるのですよね。覚えようと思って覚える記憶の他に、対象は選択できないものの意識せずに覚えて勝手に現れる記憶もあります。他にも友達が別の友達と出かけた日が去年の 12 月 16 日だとぼんやり頭に浮かぶこともありました。このように昔から記憶について考える機会があり記憶することに対しては少し思うところがあります。記録をしなければ目の前の事象(晩御飯であれ何であれ)が今後脳内に浮かぶことは未来永劫ないのだと考えるとついつい写真を撮ってしまうのですよ。写真だけを格納するなら HDD 容量は無制限みたいなものなのだし。例えば、少なくともこの 2 年口にしたものは 99%以上写真に取めていると思います。私は今後も記録手であり続けるでしょう。

また別の話として、私は国道標識(逆三角形の青いやつ)を撮影することを趣味としており、2023 年 11 月現在では国道 459 本中 203 本の標識を撮影しています。撮る理由は 2 つで、片方は単純にデザインとフォントが好きだし番号が付いていて無謀とは思えない数だから集めたくなるというものです。もう 1 つは記憶と記憶の繋がり(パス)を増やしてくれるからです。下の図は 1 年前に 47 ページ 33,000 語書いて

頓挫している北海道記事から引き抜いたものです。ある記憶はトリガーがあって思い出すということを言いたいのです。国道標識を HP の HTML に埋め込む際、写真と簡単に何か 1 文添えるようにしています。これを Trigger Sentence と呼称すると、この文をある時間が経ってから読むことで思い出す記憶があるのです。例として乱数で決めた国道 196 号で話をすると、図に示す通りで最初の文から記憶の箱へとパスを伝って芋づる式に記憶が掘り起こされるのです。有光層とは海中で太陽光が届く範囲という意味の語ですがこの場合は何もしなくても今思い出すことができる層という意味です。有光層の深いところにアクセスすることで場合によっては無光層(今現在写真などの補助なしに思い出せない記憶)へと手が届くかもしれません。国道 196 号を四国で撮った後は船で九州に渡り国道 210 号を撮影しました。国道は別の国道と関連し、別の国道の Trigger Sentence を起点として新たな記憶が掘り起こされるのです。



次の 2 ページでは頓挫した北海道記事の 1、2 ページ目をそのまま引っ張ってきて供養します。

「Last」

2022/9/3~2022/9/13

9/8 十勝三股





記憶と記録

「こういうとけずに残った雪を　　って言う。古い雪がとけずに残ってどんどん上に積み重なっていくんだ。」(9/11 根室市落石)

記憶が消えていく……、否。

情景が記憶の海の中、深いところに沈んでいく。

もはや海の底から引き上げるこのできない記憶があれば、適切なトリガーを元に浮かび上がってくる記憶もあり、星となって空を漂っている輝く記憶もある。

2022年10月11日0時10分



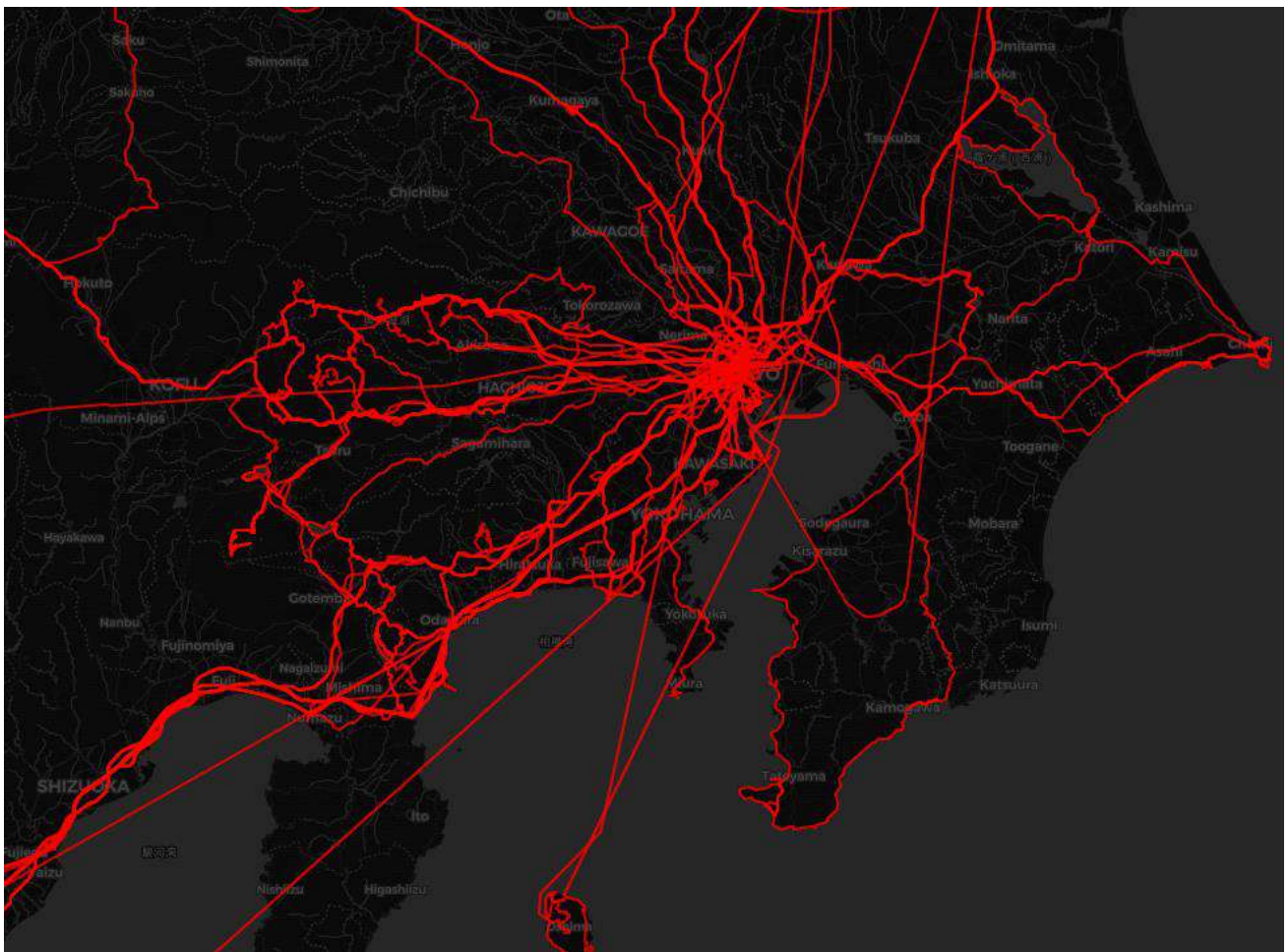
今回の記事について

今回の記事は 50 ページになると想定していたところ現時点で 100 ページとなっています。従来から余白も削ったのになんで！？もっと簡潔に書きたかったのですが、今回私が記事を通して記録したかったのは「10月28日～11月4日」という1週間の忙しさ、ハードさでした。それを記録するために背景から何から何まで記述することになりページ数が膨れ上がってしまいました。まあ私のする旅がコンテンツに溢れているというのも一因でしょう。この先 Ex1 や Ex2 では長くなりすぎないように注意して書いてみます。(こんなに細かく書いていたらいくら時間があっても足りねーよ！！2021年9月の北海道記事は610ページの18万語超になってしまったし。)

旅の交通手段

記事の冒頭において旅の交通手段って色々ありますよね？という文言を書きました。この記事では徒歩、自転車、鉄道、車の4つの交通手段を使った旅について記述しました(Ex1 明神祭と Ex2 只見も含めて)。下のは自分の言葉なのですが気に入っています。

車で行けば2点が描かれる。自転車なら2点を結ぶ線になる。徒歩なら太線で描かれる。



その土地の本当を知りたいければ自転車でもスピードが速すぎるのです。結局のところ徒歩でないとしつかりその土地を見られないし、会話も生まれにくいのです。交通手段は上手く使い分けたいもの。

話を奥只見編へ戻して……

切符の返金を諦めた私は輪行解除して家へ帰ったのでした。今日輪行と輪行解除しすぎじゃない？

2023/11/5 1:51 就寝

時計が……？

気付いてしまいました。時計おかしくない??



現在 11 月 5 日の 16 時 41 分であるはずなのに時計は 1 日進んだ 11 月 6 日 16 時 41 分を示しています。つまり昨日駅の窓口で見ていた時計は 1 日進んでいたわけで返金できたやんか！スマホの時計を見たら気付いたのかもしれないけれど、いや自分の性格的に 5 分のズレぐらいなら気付けるけれどここまで派手にズレていたら逆に気付かないわ！人間が悪いにせよ 1 日ズレうる時計ってそれどうなのよ(責任転嫁)。

過去の写真を見てみると 11/4 の朝に始発只見線で撮った時計はズレている、11/3 の夜に小出駅まで輪行してきた時点でもズレている、山手線を一周した 10/19 時点ではズレていない。私ほど頻繁に記録しているところまで分かるのですよ(たまにこういう形で写真が役に立つ、忘れ物など)。

遊んでばかりいられず帰って来た翌日は研究室へ。

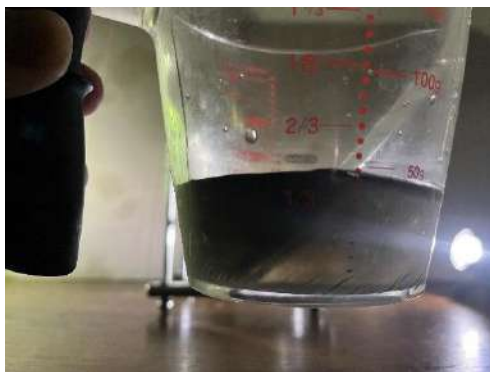
化学実験



濃いグレープサイダーという名の毒沢鉱泉で汲んできたイオンたっぷりの透明な水が冷蔵庫で冷えていたのでネットで読んだ実験をすることにしました。

1. お茶+毒沢鉱泉

なんと黒色になりました。飲んでみるとレモン水を水で薄めたような感じ。化学に関しては素人なのですが、お茶に含まれるタンニンと源泉に含まれる鉄(II)イオンが酸性条件下(pH2)で反応してタンニン鉄を作ったと考えます。



2. 三ツ矢サイダー+毒沢鉱泉

写真はありませんが透明と透明を混ぜると黄色になりました。三ツ矢サイダーのクエン酸と鉄(II)イオンが反応してクエン酸鉄を作ったみたい。クエン酸は3価の弱酸(カルボキシ基が3つ)らしいけどどういう反応機構なのでしょう。よく分からないけれど水素が発生していたりする……？

次で最後。Next：国道 352 号とかいう化け物みたいなスペックを持った道路

国道 352 号とかいう化け物みたいなスペックを持った道路

この区間を自転車で走りたい貴方に(経験豊富な人向けではありません)。

正確には国道 352 号の小出～檜枝岐は素晴らしい道でした。緑の季節を映しているストリートビューで道を軽く辿ってみました。惹かれる要素は特にありませんでした。まあ樹海ラインという名前を感じられるのと季節によっては洗い越しの水が増えていて楽しいかも？ここでは秋が一番心に響くと思うので秋に走るという前提を置きます。紅葉というのは年によって異なる色づき度合い(自然の機嫌)、光の当たり方、訪れるタイミング(色づき始めか真ん中か晩秋か)によって目での見え方が異なるものです。そしてこの道路の難しいのは、標高 200m から 1,530m という大きな標高差を上ったり下りたりするのでどの標高に焦点を当てるかという問題があります。まあここまで考える人はあまりいないかも？実際どこに行っても紅葉が残っている場所も散っている場所もありましたし、自然を読むというのは難しいことですから。まあ、色々書いたけれど天気とタイミングだけ選んで適当に走るだけで十分綺麗なものを見られると思います。天気は雨でなければ良いと思う。個人的にタイミングは晩秋がおすすめ(それしか行っていませんが)。一面緋色に染まる東ノ城と「凄惨」の壁面には圧倒されるでしょう。色づき具合は Twitter を見れば大体毎日誰かは行っているだろうから分かります。小出と檜枝岐のどちらから走るかですが、これまた個人的には小出から走る事を勧めます。新潟～福島県境から檜枝岐までの道は眺望もあまり開けず魅力を感じなかったのでもって走っても良い、極端な話夜走っても良い(嫌だけど)。素晴らしい空間は県境以西に詰まっていると考えており、これは私が書いてきた記事を読めば多少なりとも伝わるでしょう。東側の区間も悪くはないのだけど奥多摩で見るとあまり変わらない気がしました(相手が西側というのが悪い)。小出から走ることによって枝折峠終盤には対岸に朝日に当たり綺麗に紅葉が見られるし、枝折峠を朝通ることによって運が良ければ雲海と滝雲が見られます。ついでに雲海へ自転車で突っ込むこともでき銀山平まで+しばらくは幻想的な雲の中を走行できるでしょう。運が良ければ気温が上がってきて数分前まで視界を覆っていた雲が気持ち良いくらい綺麗さっぱり無くなり紅葉を楽しむ時間が始まります。更に牛ノクソ沢と「凄惨」を午前通過することで対岸へ正面から光が当たり綺麗です。うん、丸っきり私の体験だけで今回上手く行き過ぎたわ！小出駅周辺に宿は少ないので早めに予約すると、檜枝岐には宿をとっておくことを強く勧めます。駅のある只見まで 60km もあるという理由もあるけれど、何より檜枝岐に泊まるのが楽しそうだから。そばに郷土の珍味に温泉に紅葉に、私も本当は泊まりたかったです。時間があるのなら Ex2 で紹介する近くの温泉たちも堪能して欲しい。

その他推奨事項について。別に偉そうに語るつもりはないのですが私のように単独で行くのならそれなりの自転車・旅(自転車旅ではない)経験を有しているべきでしょう。最近サークルランで上るやつが無く心配なので書きますが小出から檜枝岐まで山岳区間で 100km あるので多少のヒルクライム経験(速度はいらぬ)は必要です。パンク修理ぐらいできて当然(タイヤの内側を指で触って確認すること)ですが、個人的には走力より判断力や先の見通しを持つこと、計画性の方が大事だと思います。万一補給ポイントが最初から最後まで無いとしてその補給で足りるのか、トイレはあるのか、道半ばで走行できなくなった時のリカバリーなど。あまり関係ないかもしれないけれど宿のチェックインに遅れる時に連絡を入れないのは論外です。色々楽しめませんが、ぜひ奥只見に行ってください。

第 3 部 奥只見編 完結

第三部の URL は以下のとおりです。引き続き『轍』をお楽しみください。

http://www.teamnc.net/online-magazines/pdf/wadachi2023_3.pdf

